

(様式第10)

厚生労働大臣 殿

聖医大管333 号
令和 5年 10月 2日
開設者名 学校法人 聖マリアンナ医科大学
理事長 明石 勝也

聖マリアンナ医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2丁目16番1号
氏名	学校法人 聖マリアンナ医科大学 理事長 明石 勝也

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

聖マリアンナ医科大学病院

3 所在の場所

〒216-8511 神奈川県川崎市宮前区菅生2丁目16番1号
電話(044)977-8111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科							有
内科と組み合わせた診療科名等							
<input checked="" type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		<input type="radio"/>		11リウマチ科
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						無	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						無	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科		3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							
川崎市立多摩病院の歯科口腔外科と連携し、歯科の診療体制を整備している。							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	代謝・内分泌内科	2	脳神経内科	3	腫瘍内科	4	神経精神科	5	乳腺・内分泌外科
6	形成外科	7	病理診断科	8	リハビリテーション科	9	疼痛緩和内科	10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
31	0	0	0	924	955

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	679	211	691.3	看護補助者	108	診療エックス線技師	0
歯科医師	0	0	0	理学療法士	32	臨床検査技師	121
薬剤師	83		83	作業療法士	10	衛生検査技師	0
保健師	86	1	86.7	視能訓練士	9	その他	0
助産師	46	1	46.5	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0
看護師	1083	52	1112.8	臨床工学士	46	医療社会事業従事者	14
准看護師	0	0	0	栄養士	2	その他の技術員	60
歯科衛生士	0	0	0	歯科技工士	0	事務職員	278
管理栄養士	31	3	32.5	診療放射線技師	81	その他の職員	0

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	75	眼科専門医	10
外科専門医	46	耳鼻咽喉科専門医	10
精神科専門医	10	放射線科専門医	21
小児科専門医	24	脳神経外科専門医	6
皮膚科専門医	6	整形外科専門医	25
泌尿器科専門医	6	麻酔科専門医	20
産婦人科専門医	19	救急科専門医	19
		合計	297

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (大坪 毅人) 任命年月日 令和 2 年 4 月 1 日

業務経験
 ・平成29年4月1日より医療安全対策委員長及び医療安全管理担当副院長に就任。

業務内容
 ・毎月1回医療安全対策委員会へ出席し審議。
 ・院内のインシデント・アクシデント報告を受け、案件により臨時医療安全対策委員会開催を指示。
 ・医療安全管理室より案件報告を受け、毎月1回病院としての対応を協議。
 ・毎月1回患者相談全記録の確認。
 ・全国医学部長病院長会議等からの『医療安全情報』を確認し、当該部署へ情報提供。
 ・日本私立医科大学協会の相互ラウンド(当院への訪問)に参加。
 ・医療安全関連の教職員研修会に参加。
 ・横浜地方裁判所の医療訴訟関係協議会へ出席。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	694.8 人	0 人	694.8 人
1日当たり平均外来患者数	2052.9 人	0 人	2052.9 人
1日当たり平均調剤数	入院1484.3 外来139.4		剤
必要医師数	189		人
必要歯科医師数	0		人
必要薬剤師数	23		人
必要(准)看護師数	415		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	有
集中治療室	(※内訳、下記参照) 1145.7 m ²	RC造	人工呼吸装置	63 床 有	心電計	有
			その他の救急蘇生装置	有	心細動除去装置	有
					ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	248.69 m ²	病床数	23 床	
	[移動式の場合]	台数	0 台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	97.26 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名	薬剤部(薬剤管理指導室 DI室)			
化学検査室	360 m ²		(主な設備)	フリーザー、浸透圧測定装置、分光光度計、生化学自動分析装置 純水装置、安全キャビネット、乾熱滅菌器、自動分注仕分装置		
細菌検査室	153 m ²		(主な設備)	測定機器、フラン器、高圧滅菌器、遠心機、顕微鏡、冷蔵冷凍庫等		
病理検査室	354.48 m ²		(主な設備)	システムバーコード印字機、自動包埋装置、自動染装置		
病理解剖室	49.12 m ²		(主な設備)	解剖台、高圧滅菌装置、真空パック装置		
研究室	1874.5 m ²		(主な設備)	遠心分離機、超低温フリーザー、顕微鏡、高圧タンク、超純水装置		
講義室	1547.4 m ²		室数	5 室	収容定員	1,164 人
図書室	1017 m ²		室数	1 室	蔵書数	140,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

※集中治療室

GIKU 24床 512.68m ²	EICU 6床 132.09m ²	SCU 9床 147.45m ²	MFICU 9床 136.92m ²	NICU 15床 216.53m ²
-------------------------------	------------------------------	-----------------------------	-------------------------------	-------------------------------

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	95.4 %	逆紹介率	94.6 %
算出根拠	A: 紹介患者の数		19,161 人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		21,865 人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		2,899 人
	D: 初診の患者の数		23,121 人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
上原 敏夫	一橋大学名誉教授、 山本柴崎法律事務所 弁 護士	○	日本を代表する民事訴訟法 学者であり、医療事故調査委 員会外部委員を務めるなど、 医療関係の法務についても深 い見識を有している。人格識 見は各界においても広く知ら れているところであり、外部委 員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理又は法律 に関する識見を有する者その 他の学識経験を有する者
相馬 孝博	千葉大学医学部附属病 院医療安全管理部 教 授		心臓外科の指導医として活 躍、国立保健医療科学院政 策科学部安全科学室長を務 め、名古屋大学医学部附属 病院医療の質・安全管理部准 教授、東京医科大学医療安 全管理 学講座主任教授を経て現職。 インфекションコントロールド クター(ICD)、日本医療の質・ 安全学会理 事、日本医療・病院管理学会 評議員、日本呼吸器外科学 会評議員、横浜市立大学病 院外部評価委員会委員長を 務める。感染制 御および医療安全管理業務 の経験を有する委員として見 識を有している。人格、識見と も優れ外部委員としてふさわ しい	無	医療に係る安全管理又は法律 に関する識見を有する者その 他の学識経験を有する者
岡田 綾	順天堂大学再編事業事 務局 前順天堂医院看 護部長		順天堂大学医学部附属練馬 病院、順天堂医院で長年に渡 り看護部長を務められ、自施 設において医療安全対策に 積極的に関わっていた。大学 病院に求められる実践・教 育・研究という役割的視点を 持ち合わせており、また人格 的にも優れている人物であ る。外部委員としてふさわし い。	無	医療に係る安全管理又は法律 に関する識見を有する者その 他の学識経験を有する者
福島 慎吾	認定NPO法人難病のこ ども支援全国ネットワ ーク会専務理事		脊髄性筋萎縮症という神経難 病、てんかんのある子どもの 父親。社会福祉士。入間市障 害者福祉審議会会長、神奈 川県慢性疾病児童支援協議 会委員、千葉県移行期医療 支援連絡協議会委員、社会 保障審議会専門委員などを 努められており、人格、識見と も優れ、外部委員としてふさ わしい。	無	医療を受ける者その他の医療 従事者以外の者

大橋 茂	内部監査室 室長		法人の内部監査室長として会計監査・業務監査に携わり、公平な立場で物事が判断でき、内部委員としてふさわしい。	有	その他
------	----------	--	---	---	-----

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法: ホームページで公開	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	
扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	5	56	原発性免疫不全症候群	28
2	筋萎縮性側索硬化症	14	57	IgA腎症	46
3	脊髄性筋萎縮症	6	58	多発性嚢胞腎	40
4	原発性側索硬化症	2	59	黄色靭帯骨化症	25
5	進行性核上性麻痺	16	60	後縦靭帯骨化症	16
6	パーキンソン病	289	61	広範脊柱管狭窄症	2
7	大脳皮質基底核変性症	16	62	特発性大腿骨頭壊死症	81
8	ハンチントン病	3	63	下垂体性ADH分泌異常症	23
9	シャルコー・マリー・トゥース病	14	64	下垂体性TSH分泌亢進症	17
10	重症筋無力症	103	65	下垂体性PRL分泌亢進症	19
11	多発性硬化症／視神経脊髄炎	114	66	クッシング病	10
12	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	23	67	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	56
13	封入体筋炎	4	68	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	13
14	クロー・深瀬症候群	1	69	下垂体前葉機能低下症	90
15	多系統萎縮症	14	70	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
16	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	55	71	先天性副腎皮質酵素欠損症	4
17	ライゾゾーム病	10	72	アジソン病	12
18	副腎白質ジストロフィー	3	73	サルコイドーシス	56
19	ミトコンドリア病	12	74	特発性間質性肺炎	38
20	もやもや病	16	75	肺動脈性肺高血圧症	15
21	プリオン病	5	76	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
22	進行性多巣性白質脳症	1	77	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	23
23	HTLV-1関連脊髄症	63	78	網膜色素変性症	19
24	全身性アミロイドーシス	7	79	特発性門脈圧亢進症	3
25	遠位型ミオパチー	2	80	原発性胆汁性胆管炎	35
26	神経線維腫症	24	81	原発性硬化性胆管炎	11
27	天疱瘡	10	82	自己免疫性肝炎	15
28	膿疱性乾癬(汎発型)	16	83	クローン病	110
29	スティーヴンス・ジョンソン症候群	5	84	潰瘍性大腸炎	249
30	中毒性表皮壊死症	1	85	好酸球性消化管疾患	52
31	高安動脈炎	27	86	ルビンシュタイン・テイビ症候群	3
32	巨細胞性動脈炎	31	87	CFC症候群	6
33	結節性多発動脈炎	38	88	コステロ症候群	13
34	顕微鏡的多発血管炎	71	89	チャージ症候群	2
35	多発血管炎性肉芽腫症	37	90	クリオピリン関連周期熱症候群	5
36	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	43	91	若年性特発性関節炎	31
37	悪性関節リウマチ	54	92	先天性ミオパチー	2
38	バージャー病	69	93	筋ジストロフィー	18
39	原発性抗リン脂質抗体症候群	5	94	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	1
40	全身性エリテマトーデス	418	95	遺伝性周期性四肢麻痺	3
41	皮膚筋炎／多発性筋炎	188	96	脊髄空洞症	15
42	全身性強皮症	120	97	脊髄髄膜瘤	5
43	混合性結合組織病	65	98	アイザックス症候群	6
44	シェーグレン症候群	44	99	遺伝性ジストニア	7
45	成人スチル病	26	100	脳表ヘモジデリン沈着症	2
46	再発性多発軟骨炎	62	101	前頭側頭葉変性症	7
47	ベーチェット病	81	102	ビッカースタッフ脳幹脳炎	2
48	特発性拡張型心筋症	29	103	痙攣重積型(二相性)急性脳症	2
49	肥大型心筋症	18	104	先天性無痛無汗症	1
50	拘束型心筋症	1	105	片側巨脳症	1
51	再生不良性貧血	14	106	神経細胞移動異常症	5
52	自己免疫性溶血性貧血	14	107	ドラベ症候群	18
53	発作性夜間ヘモグロビン尿症	6	108	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	69
54	特発性血小板減少性紫斑病	43	109	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	1
55	血栓性血小板減少性紫斑病	5	110	レノックス・ガストー症候群	3

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数	疾患名		患者数
111	ウエスト症候群	8	166	骨形成不全症	3
112	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	1	167	軟骨無形成症	6
113	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	3	168	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	5
114	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	1	169	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	8
115	レット症候群	1	170	後天性赤芽球癆	5
116	スタージ・ウェーバー症候群	3	171	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1
117	結節性硬化症	8	172	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	1
118	先天性魚鱗癬	3	173	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	10
119	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	11	174	総排泄腔遺残	3
120	特発性後天性全身性無汗症	1	175	先天性横隔膜ヘルニア	3
121	マルファン症候群	7	176	胆道閉鎖症	11
122	エーラス・ダンロス症候群	4	177	遺伝性腭炎	29
123	ウィルソン病	2	178	嚢胞性線維症	1
124	低ホスファターゼ症	3	179	IgG4関連疾患	18
125	ウィーバー症候群	1	180	黄斑ジストロフィー	1
126	コフィン・ローリー症候群	2	181	若年発症型両側性感音難聴	1
127	多脾症候群	2	182	遅発性内リンパ水腫	12
128	鰓耳腎症候群	2	183	好酸球性副鼻腔炎	36
129	ヌーナン症候群	1	184	進行性ミオクローヌステんかん	1
130	4p欠失症候群	3	185	先天異常症候群	1
131	スミス・マギニス症候群	1	186	シトリン欠損症	2
132	22q11.2欠失症候群	1	187	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	7
133	総動脈幹遺残症	1	188	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	10
134	修正大血管転位症	6	189	特発性多中心性キャッスルマン病	3
135	完全大血管転位症	8	190	ネフロン癆	1
136	単心室症	3	191	ホモシスチン尿症	3
137	左心低形成症候群	2			
138	三尖弁閉鎖症	8			
139	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	7			
140	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	27			
141	ファロー四徴症	13			
142	両大血管右室起始症	18			
143	エプスタイン病	4			
144	アルポート症候群	6			
145	急速進行性糸球体腎炎	29			
146	抗糸球体基底膜腎炎	2			
147	一次性ネフローゼ症候群	42			
148	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2			
149	紫斑病性腎炎	6			
150	先天性腎性尿崩症	1			
151	オスラー病	20			
152	閉塞性細気管支炎	1			
153	肺胞低換気症候群	3			
154	副甲状腺機能低下症	15			
155	偽性副甲状腺機能低下症	9			
156	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1			
157	フェニルケトン尿症	2			
158	尿素サイクル異常症	3			
159	ポルフィリン症	1			
160	筋型糖原病	2			
161	肝型糖原病	2			
162	家族性地中海熱	26			
163	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	2			
164	慢性再発性多発性骨髄炎	1			
165	強直性脊椎炎	27			

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	191
合計患者数(人)	4,252

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・別紙施設基準届出状況参照	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・別紙施設基準届出状況参照	

施設基準届出状況

< 基本診療料 >

- 情報通信機器を用いた診療
- 特定機能病院入院基本料（一般7対1）
- 特定機能病院入院基本料（精神7対1）
- 救急医療管理加算
- 超急性期脳卒中加算
- 診療録管理体制加算 1
- 医師事務作業補助体制加算1（20対1）
- 急性期看護補助体制加算1（25対1）看護補助者5割以上
注2 8 夜間100対1急性期看護補助体制加算・注3 夜間看護体制加算・注4 看護補助体制充実加算
- 看護職員夜間配置加算1（12対1）
- 療養環境加算
- 重症者等療養環境特別加算
- 無菌治療室管理加算 1
- 無菌治療室管理加算 2
- 緩和ケア診療加算
- 精神科心身入院施設管理加算
- 精神科身体合併症管理加算
- 精神科リエゾンチーム加算
- 摂食障害入院医療管理加算
- 医療安全対策加算 1
- 感染対策向上加算1
- 患者サポート体制充実加算
- 重症患者初期支援充実加算

< 特掲診療料 >

- 外来栄養食事指導料（注2）
- 遠隔モニタリング加算（ペースメーカー指導管理料）
- 糖尿病合併症管理料
- がん性疼痛緩和指導管理料
- がん患者指導管理料 イ
- がん患者指導管理料 ロ
- がん患者指導管理料 ハ
- がん患者指導管理料 ニ
- 外来緩和ケア管理料
- 移植後患者指導管理料 1（臓器移植後の場合）
- 糖尿病透析予防指導管理料
- 小児運動器疾患指導管理料
- 乳腺炎重症化予防ケア・指導料
- 婦人科特定疾患治療管理料
- 腎代替療法指導管理料
- 一般不妊治療管理料
- 生殖補助医療管理料1
- 院内トリアージ実施料
- 外来放射線照射診療料
- 外来腫瘍化学療法診療料1
- 連携充実加算
- ニコチン依存症管理料
- 療養・就労両立支援指導料
- がん治療連携計画策定料
- ハイリスク妊産婦連携指導料1
- 肝炎インターフェロン治療計画料
- 薬剤管理指導料
- 医療機器安全管理料 1
- 医療機器安全管理料 2
- 精神科退院時共同指導料1・2
- 重症患者搬送加算
- 在宅血液透析指導管理料
- 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
- 持続血糖測定器加算(間歌注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定)
- 持続血糖測定器加算(間歌注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
- 遺伝学的検査
- 骨髄微小残存病変量測定
- BRCA1/2遺伝子検査
- がんゲノムプロファイリング検査
- 先天性代謝異常症検査
- 抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
- 抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
- HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
- ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
- 検体検査管理加算(Ⅰ)
- 検体検査管理加算(Ⅳ)
- 国際標準検査管理加算
- 遺伝カウンセリング加算
- 遺伝性腫瘍カウンセリング加算
- 心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
- 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- 胎児心エコー法
- ヘッドアップティルト試験
- 長期継続頭蓋内脳波検査
- 長期脳波ビデオ同時記録検査1
- 単線維筋電図
- 脳波検査判断料1
- 神経学的検査
- 補聴器適合検査
- ロービジョン検査判断料
- コンタクトレンズ検査料 1
- 小児食物アレルギー負荷検査
- 内服・点滴誘発試験
- 前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)
- 経気管支凍結生検法
- 画像診断管理加算 1
- 画像診断管理加算 3
- ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
- CT撮影及びMRI撮影
- 冠動脈CT撮影加算
- 血流予備量比コンピューター断層撮影
- 外傷全身CT加算
- 心臓MRI撮影加算
- 乳房MRI撮影加算
- 頭部MRI撮影加算
- 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- 外来化学療法加算 1
- 無菌製剤処理料
- 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
- 脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
- 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
- 呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
- がん患者リハビリテーション料
- 経頭蓋磁気刺激療法
- 児童思春期精神科専門管理加算(通院・在宅精神療法)
- 療養生活環境整備指導加算(通院・在宅精神療法)
- 療養生活継続支援加算(通院・在宅精神療法)
- 認知療法・認知行動療法1
- 抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
- 医療保護入院等診療料
- 静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
- 多血小板血漿処置
- 人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)
- 導入期加算1、2、3及び腎代替療法実績加算
- 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
- 難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法

- 褥瘡ハイリスク患者ケア加算
- ハイリスク妊娠管理加算
- ハイリスク分娩管理加算
- 呼吸ケアチーム加算
- 術後疼痛管理チーム加算
- 後発医薬品使用体制加算 1
- 病棟薬剤業務実施加算 1
- 病棟薬剤業務実施加算 2
- データ提出加算 2及び4
- 入退院支援加算 1・3(地域連携診療計画加算/入院時支援加算/総合機能評価加算)
- 認知症ケア加算1
- せん妄ハイリスク患者ケア加算
- 精神疾患診療体制加算
- 精神科急性期医師配置加算 2のイ
- 地域医療体制確保加算
- 救命救急入院料 1
- 特定集中治療室管理料 2
- ハイケアユニット入院医療管理料1
- 脳卒中ケアユニット入院医療管理料
- 総合周産期特定集中治療室管理料(母体・胎児)
- 総合周産期特定集中治療室管理料(新生児)
- 新生児治療回復室入院医療管理料
- 小児入院医療管理料 1
- 看護職員処遇改善評価料73

- 移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
- 皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
- 組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
- 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))
- 骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
- 椎間板内酵素注入療法
- 脳腫瘍覚醒下マッピング加算
- 内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
- 脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
- 腎臓刺激装置植込術及び腎臓刺激装置交換術
- 角結膜悪性腫瘍切除術
- 緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
- 緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術))
- 緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
- 網膜再建術
- 経外耳道の内視鏡下鼓室形成術
- 植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
- 耳管用補綴材挿入術
- 内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
- 鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
- 鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
- 乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
- 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
- 乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
- ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
- 肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
- 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
- 食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膈腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
- 経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
- 胸腔鏡下弁形成術
- 胸腔鏡下弁置換術
- 経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
- 経皮的僧帽弁クリップ術
- 不整脈手術(左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの))
- 不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテルの手術によるもの))
- 経皮的中隔心筋焼灼術
- ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
- 両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
- 植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
- 両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
- 大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
- 経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
- 補助人工心臓
- 経皮的下肢動脈形成術
- 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
- 腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
- 腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
- 内視鏡的逆流防止粘膜切除術
- 腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
- ハルーン閉塞下逆行性経静脈の塞栓術
- 腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
- 胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
- 腹腔鏡下肝切除術
- 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
- 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
- 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
- 内視鏡的小腸ポリープ切除術
- 同種死体腎移植術
- 生体腎移植術
- 膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰差手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
- 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
- 胎児胸腔・羊水腔シャント術
- 胎児輸血術(一連につき)及び臍帯穿刺
- 体外式膜型人工肺管理料
- 胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
- 医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術
- 輸血管理料 Ⅰ
- 輸血適正使用加算
- 自己クリオプレシビテート作製術(用手法)
- 同種クリオプレシビテート作製術
- 人工肛門・人工膀胱増設術前処置加算
- 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- 麻酔管理料(Ⅰ)
- 麻酔管理料(Ⅱ)
- 周期薬剤管理加算
- 放射線治療専任加算
- 外来放射線治療加算
- 高エネルギー放射線治療
- 一回線量増加加算
- 強度変調放射線治療(IMRT)
- 画像誘導放射線治療加算(IGRT)
- 体外照射呼吸性移動対策加算
- 定位放射線治療
- 定位放射線治療呼吸性移動対策加算
- 画像誘導密封小線源治療加算
- 病理診断管理加算 2
- 悪性腫瘍病理組織標準本加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・LDLアフェレシス療法	

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	3回 /週	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	30
	剖検率(%)	5.3

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
1	国民、医師を対象とした総合診療専門医に関するニーズ調査	大平 善之	総合診療内科	100,000	補委	(独)日本学術振興会
2	COVID-19流行下でのスポーツイベント開催は大会関係者の感染率に影響するか	足利 光平	循環器内科	200,000	補委	(独)日本学術振興会
3	超高齢化社会!! 本邦の脳血管病の発症と気象大気汚染の関係とそこにかかる医療費	米山 喜平	循環器内科	200,000	補委	(独)日本学術振興会
4	心臓MRIによる拡張型心筋症の経時的線維化進展に関する研究	中島 育太郎	循環器内科	600,000	補委	(独)日本学術振興会
5	二次性三尖弁閉鎖不全症における負荷心エコー検査の有用性	桑田 真吾	循環器内科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
6	胎仔心筋細胞増殖機構Hipp-Yap経路に着目した心不全治療応用への基盤研究	松本 直樹	循環器内科	400,000	補委	(独)日本学術振興会
7	腫瘍循環器リハビリテーションのQOLに着目した効果の検証	木田 圭亮	循環器内科	600,000	補委	(独)日本学術振興会
8	人工知能・新型ゲノムデータ駆動型アプローチに基づく革新的胃癌統合医療の創成	山本 博幸	消化器内科	7,200,000	補委	(独)日本学術振興会
9	クロマチン立体構造からの細胞系譜解析を用いた膵癌新規分子標的の同定と検証	立石 敬介	消化器内科	4,300,000	補委	(独)日本学術振興会
10	ウイルスゲノム組み込みと生体機能情報のリアルタイム血中可視化による子宮頸癌の制御	伊東 文生	消化器内科	700,000	補委	(独)日本学術振興会
11	膵癌等を標的とする革新的消化器系新規腫瘍マーカー・ラミニン γ 2とその機能解析	安田 宏	消化器内科	900,000	補委	(独)日本学術振興会
12	胃液、胆汁、血液を用いた新規癌診断法におけるラミニン γ 2単鎖の有用性の解析	清川 博史	消化器内科	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
13	視線追跡装置を用いた消化器内視鏡治療技術の可視化によるトレーニングシステム開発	前畑 忠輝	消化器内科	900,000	補委	(独)日本学術振興会
14	習慣的有酸素運動による加齢腎の進行予防メカニズムの解明-筋腎連関の可能性	池森 敦子	腎臓・高血圧内科	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
15	腎代替療法選択におけるSDMの質評価法の確立とその決定因子の臨床疫学的検討	柴垣 有吾	腎臓・高血圧内科	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
16	慢性腎臓病患者のヘルスリテラシーと患者予後の改善に向けたコホート研究	櫻田 勉	腎臓・高血圧内科	200,000	補委	(独)日本学術振興会

17	習慣的有酸素運動による臓器連関を介した糖尿病性腎臓病の予防メカニズムの解明	渡邊 詩香	腎臓・高血圧内科	600,000	補委	(独)日本学術振興会
18	疾患iPS細胞を用いた骨格筋代謝におけるミトコンドリア機能の意義の解明	曾根 正勝	代謝・内分泌内科	600,000	補委	(独)日本学術振興会
19	異種動物体内での機能的な副甲状腺再生	加納 麻弓子	代謝・内分泌内科	2,100,000	補委	(独)日本学術振興会
20	糖尿病患者における在宅で可能なレジスタンス運動のプロトコル確立及び効果検証	山本 雄太郎	代謝・内分泌内科	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
21	HAMのシングルセル遺伝子発現解析による疾患特異的な免疫異常発現機構の解明	山野 嘉久	脳神経内科	5,200,000	補委	(独)日本学術振興会
22	4D Flow MRIの潜因性脳梗塞の塞栓源検索における有用性	秋山 久尚	脳神経内科	100,000	補委	(独)日本学術振興会
23	パーキンソン病の垂直姿勢保持困難への主観的垂直位測定による評価手法の確立	白石 真	脳神経内科	900,000	補委	(独)日本学術振興会
24	ウェアラブル端末を用いた多発性硬化症患者のQoL評価方法の開発	櫻井 謙三	脳神経内科	900,000	補委	(独)日本学術振興会
25	サイトカインプロファイリングに注目したCAEBVの病態解明と治療法の開発	上村 悠	血液内科	600,000	補委	(独)日本学術振興会
26	Layilinを中心とした関節リウマチの滑膜増殖機構の解明	加藤 智啓	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
27	片麻痺モデルへの神経細胞シート移植とリーリン/エフリン経路の臨床応用の可能性	鈴木 登	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
28	自己免疫疾患における新規T細胞及びB細胞サブセットの動態及び機能解析	今村 充	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	400,000	補委	(独)日本学術振興会
29	免疫チェックポイント阻害療法副作用マネージメントのための免疫モニタリング法の樹立	川畑 仁人	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
30	機械的ストレスに応答する軟骨の核酸修復とエネルギー代謝の相関解析、治療法への応用	遊道 和雄	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
31	慢性活動性EBウイルス感染症発症の背景因子としての腸、口腔、鼻腔の細菌叢	新井 文子	腫瘍内科	900,000	補委	(独)日本学術振興会
32	うつ病に対するインターネット支援型認知行動療法の効果検証と普及法の確立	中川 敦夫	神経精神科	1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
33	レビー小体病に由来する老年期精神障害に関する18F-FDG PET所見の検討	笠貫 浩史	神経精神科	800,000	補委	(独)日本学術振興会
34	院内心停止等ビッグデータを用いた小児医療環境の医療安全指標にかかる多施設共同研究	清水 直樹	小児科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会

35	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチンの接種部位別の局所反応の比較	勝田 友博	小児科	200,000	補委	(独)日本学術振興会
36	大学病院における動物介在療法の有効性の評価	長江 千愛	小児科	800,000	補委	(独)日本学術振興会
37	機械学習を用いた新生児自発運動評価法の開発	今泉 太一	小児科	400,000	補委	(独)日本学術振興会
38	横隔膜呼吸筋の電気活動を中心とした多角的評価方法の確立	川口 敦	小児科	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
39	新生児診療支援システムを用いた診療・特定認定看護師の臨床推論力の向上に関する研究	北東 功	小児科	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
40	フォンタン術後の遠隔期合併症発症予防にEMSを用いたリハビリテーションは有効か？	麻生 健太郎	小児科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
41	心臓血管外科手術データベースの国際比較と手術リスクモデルの構築	縄田 寛	心臓血管外科	2,000,000	補委	(独)日本学術振興会
42	自己細胞を用いた気管の再生	小島 宏司	呼吸器外科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
43	臍帯間葉系幹細胞を用いた先天性横隔膜ヘルニアの低形成肺に対する新規治療の開発	新開 統子	小児外科	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
44	乳がんにおける内分泌療法耐性獲得メカニズムの解析	太田 智彦	乳腺・内分泌外科	4,300,000	補委	(独)日本学術振興会
45	脳・脊髄損傷に対する新規治療：造血サイトカイン髄腔内投与療法の有効性の検討	村田 英俊	脳神経外科	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
46	T1 ρ マッピングによる移植軟骨の再生過程の解明と競技復帰基準の確立	原口 直樹	整形外科	700,000	補委	(独)日本学術振興会
47	外反母趾の病態と新たな治療法確立のための第1TMT関節の解剖学的研究	軽辺 朋子	整形外科	300,000	補委	(独)日本学術振興会
48	脊柱変形における椎間板変性・Modic変性が起こるメカニズムの解明	赤澤 努	整形外科	600,000	補委	(独)日本学術振興会
49	生理的・病的荷重ストレスに応答する軟骨核酸修復・エネルギー代謝の解析と、治療応用	寺内 昂	整形外科	900,000	補委	(独)日本学術振興会
50	動力源として人工筋肉を装備する生体適合性人工骨・軟骨一体型バイオマテリアルの創製	熊井 隆智	整形外科	900,000	補委	(独)日本学術振興会
51	砂浜での競技環境が足部機能に与える影響	市川 翔太	整形外科	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
52	未知の機能的リンパ管解剖の探求からリンパ浮腫外科治療の効果を向上させる研究	関 征央	形成外科	700,000	補委	(独)日本学術振興会

53	自家培養表皮移植による乳房再建時の乳頭乳輪の色調調節	梶川 明義	形成外科	2,200,000	補委	(独)日本学術振興会
54	皮膚悪性リンパ腫の包括的な病態解明による新規治療法の提案	宮垣 朝光	皮膚科	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
55	各種MEK阻害薬の抗PD-1抗体併用時における悪性黒色腫腫瘍免疫への効果	門野 岳史	皮膚科	1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
56	尿中CD55/CD9共陽性エクソソームを標的とした膀胱癌の新規診断・治療法の確立	菊地 栄次	腎泌尿器外科	1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
57	尿路感染症に特異的なエクソソームを検出する高感度迅速検査法による鑑別診断の試み	中澤 龍斗	腎泌尿器外科	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
58	形質細胞様樹状細胞に着目した腎自発免疫寛容の解明ーヒト腎免疫寛容誘導への治療戦略	篠田 和伸	腎泌尿器外科	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
59	Nitazoxanideを中心とした多剤併用による膀胱癌の新たな治療戦略の確立	早川 望	腎泌尿器外科	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
60	がんサバイバーシップ向上を志向した妊孕性温存療法の革新的な技術開発	鈴木 直	産婦人科	3,800,000	補委	(独)日本学術振興会
61	人工卵巣を用いたマウス原始卵胞発育の機能的解析	岩端 秀之	産婦人科	1,800,000	補委	(独)日本学術振興会
62	産科危機的出血における微細超音波血流ドプラを用いた病態診断と病態別止血法の開発	西村 陽子	産婦人科	1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
63	子宮内膜を標的移植部位とした非侵襲的卵巣組織異所性移植法の開発	高江 正道	産婦人科	1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
64	卵巣組織凍結Vitrification法における新規凍結融解方法の確立	杉下 陽堂	産婦人科	1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
65	未受精卵子体外培養及び未受精卵子凍結における卵子ミトコンドリア動態を解明する	鈴木 由妃	産婦人科	2,100,000	補委	(独)日本学術振興会
66	視神経障害における軸索再生を妨げない軸索保護経路の解明	北岡 康史	眼科	1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
67	PPAR α アゴニストによる神経保護効果と分子制御機構の解明	藤田 直輝	眼科	700,000	補委	(独)日本学術振興会
68	鼻閉が及ぼす持続的運動と間欠的運動への影響と治療適応の解析	齋藤 善光	耳鼻咽喉科	200,000	補委	(独)日本学術振興会
69	疑似回転・疑似直線視覚刺激を用いた前庭動眼反射の可塑性におけるモデルの検証	肥塚 泉	耳鼻咽喉科	100,000	補委	(独)日本学術振興会
70	再起型ニューラルネットワークとMR画像を用いた頭頸部癌放射線化学療法の予後予測	富田 隼人	放射線科	700,000	補委	(独)日本学術振興会

71	TAVI後急性腎障害の早期診断に有用な新規バイオマーカーの確立	小幡 由美	麻酔科	100,000	補委	(独)日本学術振興会
72	動作分析ソフトを用いた臨床現場での気管挿管操作時の動作解析	浜辺 宏介	麻酔科	500,000	補委	(独)日本学術振興会
73	集中治療室における睡眠覚醒リズム障害の検出・せん妄予防の新技术	佐藤 暢夫	麻酔科	400,000	補委	(独)日本学術振興会
74	急性期病院と周辺関連施設の薬剤耐性菌の疫学的リンクおよび感染予防管理に関する研究	齋藤 浩輝	救急科	500,000	補委	(独)日本学術振興会
75	Track and Triggerによる自動的RRS起動システム開発・多施設検証	吉田 徹	救急科	800,000	補委	(独)日本学術振興会
76	Refeeding症候群高リスクの重症患者に対する至適栄養療法の多施設介入研究	若竹 春明	救急科	700,000	補委	(独)日本学術振興会
77	一酸化炭素(CO)中毒の光照射治療法—シミュレーションモデルによる実験方法—	平 泰彦	救急科	1,800,000	補委	(独)日本学術振興会
78	COVID-19感染症後の筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群に対するrTMSの有効性	佐々木 信幸	リハビリテーション科	800,000	補委	(独)日本学術振興会
79	多剤耐性腸内細菌科細菌の耐性機序とバイオフィルムが耐性に及ぼす影響に関する研究	竹村 弘	感染症センター	800,000	補委	(独)日本学術振興会
80	「HTLV-1 総合対策」推進におけるキャリア対策の基盤整備と適正な研究開発の推進に資する包括的評価と提言のための研究	渡邊 俊樹	脳神経内科	3,850,000	補委	厚生労働省
81	「HTLV-1 総合対策」推進におけるキャリア対策の基盤整備と適正な研究開発の推進に資する包括的評価と提言のための研究	渡邊 俊樹	脳神経内科	20,498,000	補委	厚生労働省
82	HAMならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂	山野 嘉久	脳神経内科	12,308,000	補委	厚生労働省
83	軟骨炎症性疾患の診断と治療体系の確立	鈴木 登	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	2,010,000	補委	厚生労働省
84	予測不能な乳児突然死(SUID)原因検索プロトコルと制度整備に基づく診断精度向上と実態把握、ならびに睡眠環境因子を含めたSUID/SIDS予防策提言とCDR連携のための研究	清水 直樹	小児科	3,000,000	補委	厚生労働省
85	International Classification of Health Interventions (ICHI) の我が国における活用・普及のための研究	川瀬 弘一	小児外科	2,770,000	補委	厚生労働省
86	小児・AYA世代のがん患者等に対する妊孕性温存療法のエビデンス確立を目指した研究—安全性(がん側のアウトカム)と有効性(生殖側のアウトカム)の確立を目指して	鈴木 直	産婦人科	2,300,000	補委	厚生労働省
87	小児・AYA 世代がん患者に対する生殖機能温存に関わる心理支援体制の均てん化と安全な長期検体保管体制の確立を志向した研究—患者本位のがん医療の実現を目指して	鈴木 直	産婦人科	13,800,000	補委	厚生労働省

88	新規HTLV-1感染モデルを用いたHAMの発症予防法・治療法の開発	山野 嘉久	脳神経内科	13,661,539	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
89	HAM・HTLV-1陽性難治性疾患の患者レジストリ活用によるエビデンス創出	山野 嘉久	脳神経内科	5,950,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
90	RSウイルス感染による新生児、乳児及び幼児を対象としたパリビズマブの多施設医師主導治験の推進（新規ハイリスク患者対象）	森 雅亮	リウマチ・膠原病・アレルギー内科	32,500,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
91	新規核酸医薬を用いた難治性血液疾患の病態解明	新井 文子	血液・腫瘍内科	5,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
92	診療ガイドライン掲載のためのエビデンス創出を目指した慢性活動性EBウイルス感染症とその類縁疾患のレジストリ強化・病態解析・治療法の開発	新井 文子	血液・腫瘍内科	1,150,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

計92件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年
度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を
記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Kosuke Ishizuka, Yoshiyuki Ohira	総合診療内科	Cholinergic urticaria after COVID-19 infection.	The American journal of medicine 136巻3号 Pe37-e38 2022年11月	Case report
2	Kosuke Ishizuka, Kohta Katayama, Yoshiyuki Ohira 他	総合診療内科	Moeller-Hunter glossitis.	BMJ Case Rep. 15巻8号 e251810 2022年8月	Case report
3	Tomoya Tsuchida, Hitotaka Onishi, Yoshifumi Ono 他	総合診療内科	Factors associated with preferred place of death among older adults: a qualitative interview study in Tama City, Tokyo, Japan	BMJ Open 12巻5号 Pe059421 2022年5月	Original Article
4	Kosuke Ishizuka, Daiki Yokokawa, Masatomi Ikusaka	総合診療内科	Erythromelalgia presenting with body pain.	Canadian Medical Association journal 194巻28号 PE993 2022年7月	Case report
5	Kohta Katayama, Noriaki Kurita, Toshihiko Takada 他	総合診療内科	Door-to-oral time and in-hospital outcomes in older adults with aspiration pneumonia undergoing dysphagia rehabilitation.	Clin Nutr. 41巻10号 P2219-2225 2022年10月	Original Article
6	Tomoya Tsuchida, Yoshitaka Kondo, Kosuke Ishizuka 他	総合診療内科	Nerve Identification Procedures Are Necessary for Complete Recovery From Recurrent Cases of Anterior Cutaneous Nerve Entrapment Syndrome: A Case Report.	Cureus 14巻7号 Pe26497. 2022年7月	Case report
7	Kosuke Ishizuka, Yoshiyuki Ohira, Takanori Uehara 他	総合診療内科	VAPES: a new mnemonic for considering paroxysmal disorders.	Diagnosis (Berlin, Germany) 10巻2号 P203-204 2023年1月	Review
8	Kosuke Ishizuka, Kiyoshi Shikino, Masatomi Ikusaka 他	総合診療内科	A 68-year-old man with acute exertional dyspnoea and holosystolic murmur.	Emergency medicine journal 39巻5号 Pe2 2022年5月	Case report
9	Kosuke Ishizuka, Yoshiyuki Ohira	総合診療内科	Restless Chest Syndrome: A Rare Variant of Restless Legs Syndrome	European journal of case reports in internal medicine 9巻7号 P003398 2022年7月	Case report
10	Kosuke Ishizuka, Yoshiyuki Ohira	総合診療内科	WINGED SCAPULA CAUSED BY PARSONAGE-TURNER SYNDROME AFTER BNT162B2 MRNA COVID-19 VACCINATION	European journal of case reports in internal medicine 10巻2号 P003779 2023年2月	Case report
11	Kohta Katayama, Kosuke Ishizuka, Junsuke Tawara 他	総合診療内科	Temporal Arteritis Caused by Tertiary Syphilis.	Internal medicine 62巻7号 P1095-1097 2022年8月	Case report
12	Tomoya Tsuchida, Kosuke Ishizuka, Yoshiyuki Ohira	総合診療内科	Intestinal Obstruction Caused by Japanese Pickled Plum	Journal of General Internal Medicine 38巻5号 P1303 2023年2月	Case report
13	Kosuke Ishizuka, Hiroyuki Nagano, Taiju Miyagami 他	総合診療内科	Real opinions on general medicine residency programs in Japan: Perspectives from medical students, residents, and young academic generalists	Journal of General and Family Medicine 24巻1号 P59-60 2022年9月	Review
14	Kosuke Ishizuka, Shun Yamashita, Shinichi Katsukura 他	総合診療内科	Five tips to guide beginners and young general physicians on writing clinical image reports.	Journal of General and Family Medicine 23巻6号 P413-415 2022年7月	Review

15	Tomoya Tsuchida 1, Masanori Hirose 1, Yoko Inoue 他	総合診療内科	Relationship between changes in symptoms and antibody titers after a single vaccination in patients with Long COVID	Journal of Medical Virology 94巻7号 P3416-3420 2022年7月	Original Article
16	Kosuke Ishizuka, Makoto Sugaya	総合診療内科	Japanese Spotted Fever.	The New England journal of medicine 387巻5号 P451 2022年8月	Case report
17	Kosuke Ishizuka , Kiyoshi Shikino, Hiroki Tamura 他	総合診療内科	Hybrid PBL and Pure PBL: Which one is more effective in developing clinical reasoning skills for general medicine clerkship?-A mixed-method study.	PLoS one 18巻1号 Pe0279554 2023年1月	Original Article
18	Kosuke Ishizuka, Katayama K, Ohira Y	総合診療内科	Giant cell arteritis presenting with chronic cough and headache after BNT162b2 mRNA COVID-19 vaccination.	QJM 115巻9号 P621-622 2022年7月	Case report
19	Kosuke Ishizuka, Ohira Y	総合診療内科	Scurvy	QJM 115巻7号 P475 2022年5月	Case report
20	Tanabe Yasuhiro, Takahara Mitsuyoshi, Kohsaka Shun 他	循環器内科	Intracardiac echocardiography guidance for percutaneous transcatheter closure of atrial septal defects - Nationwide registry data analysis.	Circulation Journal 87巻4号 P517-524 2023年3月	Original Article
21	Sasaki Kenichi, Togashi Daisuke, Nakajima Ikutaro 他	循環器内科	Clinical outcomes of non-atrial fibrillation bradyarrhythmias treated with a ventricular demand leadless pacemaker compared with an atrioventricular synchronous transvenous pacemaker - A propensity score-matched analysis.	Circulation Journal 86巻8号 P1283-1291 2022年7月	Original Article
22	Onishi Hirokazu, Naganuma Toru, Izumo Masaki	循環器内科	Prognostic relevance of B-type natriuretic peptide in patients with moderate mixed aortic valve disease.	ESC Heart Failure 9巻4号 P2474-2483 2022年8月	Original Article
23	Onishi Hirokazu, Izumo Masaki, Naganuma Toru 他	循環器内科	Dynamic secondary mitral regurgitation: Current evidence and challenges for the future.	Frontiers in Cardiovascular Medicine 9巻 883450 DOI: 10.3389/fcvm.2022.883450. 2022年4月	Review
24	Ashikaga Kohei, Itoh Haruki, Maeda Tomoko 他	循環器内科	Usefulness of the predicted percentage ventilatory efficiency for carbon dioxide output during exercise in patients with chronic heart failure	Heart and Vessels 38巻1号 P56-65 2023年1月	Original Article
25	Kuwata Shingo, Izumo Masaki, Shiokawa Noriko 他	循環器内科	Prognostic impact of right ventricular dysfunction following transcatheter mitral valve repair.	Journal of Transcatheter Valve Therapies 4巻1号 P9-16 2022年8月	Original Article
26	Nakahara Kazunari, Sekine Akihiro, Tateishi Keisuke	消化器内科	Self-assembling peptide gel application to achieve endoscopic hemostasis for fistula bleeding after lumen apposing metal stent removal	Digestive Endoscopy 35巻3号 Pe48-e49 2023年3月	Original Article
27	Nakahara Kazunari, Michikawa Yosuke, Sato Junya 他	消化器内科	Pancreatic duct stenting using an endoscopic ultrasound-guided intrapancreatic duct rendezvous technique	Endoscopy 54巻S 02号 PE954-E955 2022年12月	Original Article
28	Nakahara Kazunari, Sato Junya, Tateishi Keisuke	消化器内科	Posterior Superior Pancreaticoduodenal Artery Pseudoaneurysm Caused by a Large-bore Biliary Metal Stent	Journal of gastrointestinal and liver diseases : JGLD 31巻4号 P382 2022年12月	Original Article
29	Nakahara Kazunari, Michikawa Yosuke, Sato Junya 他	消化器内科	A novel self-assembling peptide hemostatic gel as rescue therapy for fistula bleeding after endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy	Journal of hepatobiliary-pancreatic sciences DOI: 10.1002/jhbp. 1326 2023年3月	Case report
30	Atsuko Kamijo-Ikemori, Kenjiro Kimura	腎臓・高血圧内科	Clinical utility of tubular markers in kidney disease: a narrative review.	Journal of Laboratory and Precision Medicine 7巻 P1-9 2022年7月	Review

31	Ryunosuke Noda, Yuki Kakinuma, Kensuke Suzuki 他	腎臓・高血圧内科	Pregnancy-onset thrombotic thrombocytopenic purpura with nephrotic syndrome: a case report	CEN Case Reports 11巻2号 P203-207 2022年5月	Case report
32	Takamasa Miyauchi, Maho Terashita, Masatomo Ogata 他	腎臓・高血圧内科	Renal hypouricemia in recipient with living kidney transplantation: a case report and literature review	CEN Case Reports 11巻2号 P177-183 2022年5月	Case report
33	Yoko Fujita, Keisuke Yoshida, Daisuke Ichikawa 他	腎臓・高血圧内科	Abrupt worsening of occult IgA nephropathy after the first dose of SARS-CoV-2 vaccination	CEN case reports 11巻3号 P302-308 2022年8月	Case report
34	Kojima Shigeki, Marui Yuhji, Shibagaki Yugo 他	腎臓・高血圧内科	Accidental removal of dialysis central venous catheter inserted for blood purification therapy: a single-center study	Clinical and Experimental Nephrology 26巻12号 P1218-1222 2022年12月	Original Article
35	Keisuke Yoshida, Sayaka Shimizu, Yohei Kita 他	腎臓・高血圧内科	Impact of inpatient educational programs on mortality after the start of dialysis therapy	Clinical and experimental nephrology 26巻8号 P819-826 2022年8月	Original Article
36	Suguru Takayama, Tsutomu Sakurada, Yugo Shibagaki 他	腎臓・高血圧内科	Seasonal variation in emergent hemodialysis initiation in the late elderly: A single-center study	Hemodialysis International 26巻2号 P160-165 2022年4月	Original Article
37	Ryunosuke Noda, Wei Han, Yugo Shibagaki 他	腎臓・高血圧内科	Renovascular hypertension secondary to massive iliopsoas hematoma	Kidney International 101巻6号 P1304 2022年1月	Case report
38	Ryunosuke Noda, Jun Nishinarita, Kenichi Araki, 他	腎臓・高血圧内科	Emphysematous cystitis caused by dysuria due to sulpiride in a patient with chronic kidney disease: a case report	SN Comprehensive Clinical Medicine 4巻号 P97 2022年4月	Case report
39	Suguru Takayama, Kazuho Inoue, Yuji Ogura 他	腎臓・高血圧内科	Angiotensin II type 1a receptor deficiency alleviates muscle atrophy after denervation	Scientific Reports 13巻1号 P519 2023年1月	Original Article
40	Takamasa Miyauchi, Hiroki Nishiwaki, Aya Mizukami 他	腎臓・高血圧内科	Hyponatremia and mortality in patients undergoing maintenance hemodialysis: systematic review and meta-analysis	Seminars in Dialysis 16巻 2023年3月	Original Article
41	Ryunosuke Noda, Yoshitaka Ishibashi, Akira Ishikawa 他	腎臓・高血圧内科	Recurrence of renal cell carcinoma in a patient who underwent kidney transplantation after a 2-year, 5-month interval of partial nephrectomy: A case report	Therapeutic Apheresis and Dialysis 27巻1号 P184-185 2022年6月	Case report
42	Tsutomu Sakurada, Koichiro Hayashi, Shigeki Kojima 他	腎臓・高血圧内科	Temporary switching from combination therapy to peritoneal dialysis monotherapy during the COVID-19 pandemic: a case report	Therapeutic Apheresis and Dialysis 27巻1号 P180-181 2023年2月	Case report
43	Tsutomu Sakurada, Shohei Yamada, Shigeki Kojima 他	腎臓・高血圧内科	Secondary embedding of peritoneal dialysis catheter in a patient scheduled for kidney transplantation: A case report	Therapeutic Apheresis and Dialysis 26巻5号 P1054-1055 2022年10月	Case report
44	Yoshiaki Hishida, Yoshio Nagai, Hidekazu Tsukiyama 他	代謝・内分泌内科	Effects of Elobixibat in Patients with Diabetes and Concomitant Chronic Constipation: an 8-week, Prospective, Single-center, Single-arm Study	Advances in therapy 39巻9号 P4205-4217 2022年7月	Original Article
45	Yuta Nakamura, Ayaka Takemoto, Takeshi Oyanagi 他	代謝・内分泌内科	Effects of cooked rice containing high resistant starch on postprandial plasma glucose, insulin, and incretin in patients with type 2 diabetes	Asia Pacific journal of clinical nutrition 32巻1号 P48-56 2023年3月	Original Article
46	Shin Kawanabe, Takuyuki Katabami, Ryuichi Oshima 他	代謝・内分泌内科	A rare case of multiple paragangliomas in the head and neck, retroperitoneum and duodenum: A case report and review of the literature	Front Endocrinol 13巻 P1054468 2023年1月	Case report

47	Mayuko Kano,Eiji Mizutani, Shota Homma 他	代謝・内分泌内科	Xenotransplantation and interspecies organogenesis: current status and issues	Frontiers in Endocrinology 13巻 963282 DOI: 10.3389/fendo.2022.963282 . 2022年8月	Original Article
48	Mayuko Kano, Hiroo Sasaki, Tsutomu Miwata 他	代謝・内分泌内科	Recipe for pituitary organoids	Frontiers in endocrinology 13巻 P1025825. DOI:10.3389/fendo.2022.1025825. 2023年1月	Review
49	Kenichi Yokota , Masakatsu Sone	代謝・内分泌内科	Autonomous cortisol secretion in patients with primary aldosteronism: A possible risk factor for new-onset diabetes mellitus	Hypertension Research 46巻3号 P803-805 2023年3月	Review
50	Kenichi Yokota, Hirotaaka Shibata, Isao Kurihara 他	代謝・内分泌内科	CASZ1: a promising factor modulating aldosterone biosynthesis and mineralocorticoid receptor activity	Hypertension Research 46巻2号 P417-420 2023年2月	Review
51	Shingo Tsunemi, Yuta Nakamura, Kenichi Yokota 他	代謝・内分泌内科	Correlation between blood ketones and exhaled acetone measured with a semiconducting gas sensor	Journal of breath research 16巻4号 DOI: 10. 1088/1752-7163/ac836a 2022年8月	Original Article
52	Takeshi Imai, Kensuke Shinohara, Kenji Uchino 他	脳神経内科	Paraneoplastic cerebellar degeneration with anti-Yo antibodies and an associated submandibular gland tumor: a case report	BMC Neurology 22巻1号 P165 2022年5月	Case report
53	Takayuki Kikuchi, Naoki Takao, Tomoo Sato 他	脳神経内科	The level of CSF CXCL10 is highly elevated and decreased after steroid therapy in patients with autoimmune glial fibrillary acidic protein astrocytopathy	Clinical and Experimental Neuroimmunology 14巻1号 P61-68 2022年10月	Original Article
54	Takahiro Shimizu, Yuji Ueno, Yohei Tateishi 他	脳神経内科	Evaluating the Potential Pathology and Short-Term Outcomes of Cryptogenic Stroke Using the Etiological Classification System	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 30巻4号 P377-389 2022年6月	Original Article
55	Kei Kaburagi, Takahiro Shimizu, Yuta Hagiwara 他	脳神経内科	Usefulness of carotid duplex ultrasonography in predicting residual large-vessel occlusions after intravenous recombinant tissue plasminogen activator therapy in patients with acute ischemic stroke	Journal of Medical Ultrasonics 50巻1号 P103-109 2022年12月	Original Article
56	Yuta Hagiwara, Naoki Takao, Noriko Usuki 他	脳神経内科	Carotid ultrasound using superb microvascular imaging to identify patients developing in-stent restenosis after CAS	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases 31巻8号 P106627 2022年8月	Original Article
57	Soichiro Shibata, Kenzo Sakurai, Keiji Tachikawa 他	脳神経内科	The Utility of Automated ASPECTS in Acute Ischemic Stroke for Intravenous Recombinant Tissue Plasminogen Activator (IV-rtPA) Therapy	Neurology International 14巻4号 P981-990 2022年12月	Original Article
58	Hirofumi Matsumoto, Makoto Shiraishi, Ariaki Higashi 他	脳神経内科	The Forward and Lateral Tilt Angle of the Neck and Trunk Measured by Three-Dimensional Gait and Motion Analysis as a Candidate for a Severity Index in Patients with Parkinson's Disease	Neurology International 14巻3号 P727-737 2022年9月	Original Article
59	Makoto Shiraishi, Tsutomu Kamo, Ryuya Kumazawa 他	脳神経内科	A multicenter, prospective, observational study to assess the satisfaction of an integrated digital platform of online medical care and remote patient monitoring in Parkinson's disease	Neurology and Clinical Neuroscience 11巻3号 P152-163 2023年3月	Original Article
60	Yukari Komine, Takahiro Shimizu, Hisanao Akiyama 他	脳神経内科	The Usefulness of Heart Rate Variability Spectral Analysis in Detecting Covert Atrial Fibrillation Among Patients with Cryptogenic Stroke	St. Marianna Medical Journal 13巻2号 P127-135 2022年12月	Original Article
61	Y Sunakawa, H Satake , J Usher 他	腫瘍内科	Dynamic changes in RAS gene status in circulating tumour DNA: a phase II trial of first-line FOLFOXIRI plus bevacizumab for RAS-mutant metastatic colorectal cancer (JACCRO CC-11).	ESMO Open 7巻3号 P100512 2022年6月	Original Article
62	Yu Sunakawa, Keishiro Takahashi, Osamu Kawaguchi 他	腫瘍内科	Phase I study of aflibercept in combination with docetaxel in Japanese patients with advanced solid malignancies.	Investigational New Drugs 40巻5号 P1032-1041 2022年10月	Original Article

63	Shinya Miura, Nobuaki Michihata, Yohei Hashimoto 他	小児科	Descriptive statistics and risk factor analysis of children with community-acquired septic shock	Journal of Intensive Care 11巻1号 P6 2023年2月	Original Article
64	Shinya Miura, Satoshi Miyata , Atsushi Kawaguchi 他	小児科	Regional variation of pediatric interhospital critical care transport in Japan	Pediatrics International 65巻1号 Pe15492 2023年2月	Original Article
65	Otsubo Takehito, Kobayashi Shinjiro, Sano Keiji 他	消化器・一般外科	A nationwide certification system to increase the safety of highly advanced hepatobiliary-pancreatic surgery	Journal of Hepato-Biliary-Pancreatic Sciences 30巻1号 P60-71 2023年1月	Original Article
66	Shimada Jin, Mikami Shinya, Hiwatari Masaki 他	消化器・一般外科	Total Drain Fluid Amylase Values Over Time Correlate with Late Complications of Pancreatic Fistulas after Gastrectomy	Journal of St. Marianna University 13巻2号 P69-75 2022年2月	Original Article
67	Hisatsune Yasuhito, Kokuba Yukihiro, Katsumata Kenta 他	消化器・一般外科	Utility of a Chimney-Type Penrose Drain for Prevention of Superficial Surgical Sift Infection in Cases of Lower Gastrointestinal Perforation	Journal of St. Marianna University 13巻2号 P51-57 2022年6月	Original Article
68	Saori Umezawa, Shinjiro Kobayashi, Takehito Otsubo 他	消化器・一般外科	Low preoperative psoas muscle mass index is a risk factor distal cholangiocarcinoma recurrence after pancreatoduodenectomy: a retrospective analysis	World journal of surgical oncology 20巻1号 P176 2022年6月	Original Article
69	Masahide Chikada, Kiyoshi Chiba, Kan Nawata 他	心臓血管外科	Longterm Followup of a Pediatric Patient with Congenital Abdominal Aortic Aneurysm with Coarctation	Annals of Vascular Diseases 15巻4号 P341-343 2022年12月	Original Article
70	Kiyoshi Chiba, Hiroshi Nishimaki, Yukihiro Ogawa 他	心臓血管外科	Midterm Results of Thoracic Endovascular Aortic Repair with Reentry Closure for Chronic Type B Aortic Dissection with Aneurysmal Dilatation	Annals of Vascular Diseases 15巻4号 P308-316 2022年12月	Original Article
71	Saji Hisashi, Okada Morihito, Tuboi Masahiro 他	呼吸器外科	Segmentectomy versus lobectomy in small-sized peripheral non-small-cell lung cancer(JCOG0802/WJOG4607L): a multicentre, open-label, phase 3, randomised, controlled, non-inferiority trial.	Lancet 399巻10335号 P1607-1617 2022年4月	Original Article
72	Yuri Nishiya, Kohei Kawaguchi, Kosuke Kudo 他	小児外科	Factors influencing the development of multicystic dysplastic kidney(MCDK) following urinary tract obstruction in the fetal lamb	Pediatric Surgery International 38巻6号 P913-918 2022年6月	Original Article
73	Uchida Masashi, Ito Hidemichi, Takasuna Hiroshi 他	脳神経外科	Initial experience with left transradial neurointerventions for cerebral aneurysms using the 6-French Simmons guiding sheath	Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases 31巻4号 P106350 2022年4月	Original Article
74	Tsutomu Akazawa, Toshiaki Kotani, Tsuyoshi Sakuma 他	整形外科	Impact of the COVID-19 pandemic on middle-aged and older patients with adolescent idiopathic scoliosis who underwent spinal fusion: a questionnaire-based survey.	Cureus 15巻1号 Pe34370 2023年1月	Original Article
75	Yoshiaki Torii, Jun Ueno, Tasuku Umehara 他	整形外科	Screw Insertion Time, Fluoroscopy Time, and Operation Time for Robotic-Assisted Lumbar Pedicle Screw Placement Compared With Freehand Technique.	Cureus 14巻5号 Pe25039 2022年5月	Original Article
76	Jun Ueno, Yoshiaki Torii, Tasuku Umehara 他	整形外科	Robotics is useful for less-experienced surgeons in spinal deformity surgery.	European Journal of Orthopaedic Surgery & Traumatology 33巻5号 P1805-1810 2022年8月	Original Article
77	Tsutomu Akazawa, Yoshiaki Torii , Jun Ueno 他	整形外科	Accuracy of computer-assisted pedicle screw placement for adolescent idiopathic scoliosis: a comparison between robotics and navigation.	European Spine Journal 32巻2号 P651-658 2023年2月	Original Article
78	Yoshiaki Torii, Jun Ueno, Masahiro Iinuma 他	整形外科	Accuracy of robotic-assisted pedicle screw placement comparing junior surgeons with expert surgeons: Can junior surgeons place pedicle screws as accurately as expert surgeons?	Journal of Orthopaedic Science オンラインで公開 DOI: 10.1016/j.jos.2022.06.012 2022年7月	Original Article

79	Yohei Shimada, Keisuke Matsuki, Hiroyuki Sugaya 他	整形外科	Return to Sports and Physical Work after Anatomical and Reverse Shoulder Arthroplasty	Journal of Shoulder and Elbow Surgery 32巻7号 P1445-1451 2023年2月	Original Article
80	Yoshiaki Torii, Jun Ueno, Masahiro Inuma 他	整形外科	The learning curve of robotic-assisted pedicle screw placements using the cumulative sum analysis: a study of the first 50 cases at a single center.	Spine Surgery and Related Research 6巻6号 P589-595 2022年11月	Original Article
81	Atsuhiko Yoshida, Tsutomu Akazawa, Yoshiaki Torii 他	整形外科	Diagnosis of spinal infection with alpha-defensin lateral flow test: a preliminary report.	Spine Surgery and Related Research 6巻5号 P443-447 2022年9月	Original Article
82	Marie Kubo, Tomomitsu Miyagaki, Hiroyuki Ohashi 他	皮膚科	A case of ruptured Baker's cyst induced by nivolumab and ipilimumab	Cutaneous Immunology and Allergy 6巻3号 P113-114 2023年3月	Case report
83	Hayakawa Nozomi, Kikuchi Eiji	腎泌尿器外科	A case of pseudoprogression in avelumab maintenance therapy for metastatic bladder cancer	IJU Case Reports 6巻1号 P5-7 2022年11月	Case report
84	Shinoda Kazunobu, Hyodo Yoji, Oguchi Hideyo 他	腎泌尿器外科	Outcome of ABO-incompatible kidney transplantation using a modified desensitization protocol without plasmapheresis	International Journal of Urology 29巻9号 P1017-1025 2022年9月	Original Article
85	Yuriko Iwahata, Hideyuki Iwahata, Junichi Hasegawa 他	産婦人科	Hemothorax after fetal pleural effusion-thoracoamniotic shunting procedure due to transient myeloproliferative disorder	Case Reports in Perinatal Medicine 11巻1号 DOI:10.1515/crpm-2021-0032 2022年6月	Case report
86	Yuriko Iwahata, Junichi Hasegawa, Chika Homma 他	産婦人科	Perinatal Risk Factors for the Development of Neonatal Intraventricular Hemorrhage in Preterm Infants	Clinical and experimental obstetrics & gynecology 49巻5号 P101 2022年4月	Original Article
87	Kaoru Ito, Junichi Hasegawa, Yoko Nishimura 他	産婦人科	Eventration of the Diaphragm in Trisomy 18: Providing Information and Helping Choose a Treatment and Management Plan with an Exact Diagnosis	Donald School Journal of Ultrasound in Obstetrics and Gynecology 16巻2号 P160-162 2022年6月	Case report
88	Chika Homma, Junichi Hasegawa, Natsumi Furuya 他	産婦人科	Placental Mesenchymal Dysplasia without Severe Maternal-fetal Complications	Donald School Journal of Ultrasound in Obstetrics and Gynecology 16巻2号 P157-159 2022年6月	Case report
89	Seido Takae, Yuriko Iwahata, Yodo Sugishita 他	産婦人科	Survey of understanding and awareness of fertility preservation in pediatric patients: Is conversation about fertility preservation unpleasant for pediatric patients?	Front Endocrinol (Lausanne) 2022巻13号 DOI:10.3389/fendo.2022.1074603 2023年1月	Original Article
90	Seido Takae, Ikkei Oyama, Mukyo Abe 他	産婦人科	An adolescent and young adult (AYA) cancer education initiative aimed at healthcare students in Japan	International Journal of Clinical Oncology 28巻1号 P191-200 2022年12月	Original Article
91	Shiho Kuji, Akira Endo, Manabu Kubota 他	産婦人科	Immunosensitivity and specificity of insulinoma-associated protein 1 (INSM1) for neuroendocrine neoplasms of the uterine cervix	Journal of Gynecologic Oncology 34巻1号 Pe1 2022年10月	Original Article
92	Hideyuki Iwahata, So-Youn Kim, Yuriko Iwahata 他	産婦人科	Thyroid hormone triiodothyronine does not protect ovarian reserve from DNA damage induced by X-ray and cisplatin	Journal of assisted reproduction and genetics 40巻3号 P481-490 2023年2月	Original Article
93	Seido Takae, Shigeyuki Furuta, Hideyuki Iwahata 他	産婦人科	Cryopreservation of paediatric ovarian tissue with an updated version of the Edinburgh criteria for appropriate patient selection	Reproductive biomedicine online 44巻4号 P667-676 2022年4月	Original Article
94	Junichi Hasegawa, Natsumi Furuya, Masatomo Doi 他	産婦人科	Histological Assessment of the Placenta Accreta Spectrum Diagnosed with a 33-MHz Linear Probe during Cesarean Section	Ultrasound in medicine & biology 48巻6号 P1151-1156 2022年6月	Original Article

95	Seido Takae, Keiichi Kato, Chie Watanabe 他	産婦人科	A practical survey of fertility-preservation treatments in the startup phase in Japan	The journal of obstetrics and gynaecology research 48巻5号 P1061-1075 2022年5月	Original Article
96	Naoto Tokuda, Yasushi Kitaoka, Ayaka Tsukamoto 他	眼科	Comparison of minimally invasive glaucoma surgery with trabecular micro-bypass stent and microhook ab interno trabeculotomy performed in conjunction with cataract surgery	International Journal of Ophthalmology 15巻7号 P1082-1088 2022年7月	Original Article
97	Keiji Sato, Tatsuya Jujo, Reio Sekine 他	眼科	Correlation between the Outcome of Vitrectomy for Proliferative Diabetic Retinopathy and Erythrocyte Hematocrit Level and Platelet Function	Journal of Clinical Medicine 11巻17号 P5055 2022年8月	Original Article
98	Hayato Tomita, Kenji Kuramochi, Atsuko Fujikawa 他	放射線科	Effects of model-based iterative reconstruction in low-dose paranasal computed tomography:a comparison with filtered back projection and hybrid iterative reconstruction	Acta Medica Okayama 76巻5号 P511-517 2022年10月	Original Article
99	Hashimoto Kazuki, Nawata Shintaro, Wada Shinji 他	放射線科	Comment on: Endovascular Stenting in Superior Vena Cava Syndrome: A Systematic Review and Meta-analysis.	CardioVascular and Interventional Radiology 46巻11号 P168-169 2022年11月	Original Article
100	Wada Shinji, Matsuoka Shin, Mimura Hidefumi	放射線科	Inspiratory and expiratory CT analyses of the diaphragmatic crus in chronic obstructive pulmonary disease	Japanese journal of radiology 40巻12号 P1257-1262 2022年7月	Original Article
101	Tomita Hayato, Yamashiro Tsuneo, Iida Gyo 他	放射線科	Radiomics analysis for differentiating of cervical lymphadenopathy between cancer of unknown primary and malignant lymphoma on unenhanced computed tomography	Nagoya journal of medical science 84巻2号 P269-285 2022年5月	Original Article
102	Nobuyuki Sasaki, Tomoo Sato, Masato Yamatoku 他	リハビリテーション科	Efficacy of repetitive transcranial magnetic stimulation for gait disturbance in HTLV-1 associated myelopathy.	NeuroRehabilitation 51巻3号 P519-526 2022年11月	Original Article
103	Nobuyuki Sasaki , Masato Yamatoku, Tomoya Tsuchida 他	リハビリテーション科	Effect of Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation on Long Coronavirus Disease 2019 with Fatigue and Cognitive Dysfunction.	Progress in Rehabilitation Medicine 8巻 P20230004 2023年2月	Original Article
104	Mariko Mouri, Mitsuru Imamura, Shotaro Suzuki 他	リウマチ膠原病アレルギー内科	Serum polyethylene glycol-specific IgE and IgG in patients with hypersensitivity to COVID-19 mRNA vaccines	Allergology international : official journal of the Japanese 71巻4号 P512-519 2022年10月	Original Article
105	Yoshioki Yamasaki, Harunobu Iida, Takayasu Ando 他	リウマチ膠原病アレルギー内科	Long-term outcomes and chronological lung volumes in patients with interstitial lung disease with anti-aminoacyl tRNA synthetase antibodies and anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibodies	Clinical Rheumatology and Related Research 34巻2号 P152-165 2022年6月	Original Article
106	Hiroko Nagafuchi , Yutaka Goto, Tomofumi Kiyokawa 他	リウマチ膠原病アレルギー内科	Reasons for discontinuation of methotrexate in the treatment of rheumatoid arthritis and challenges of methotrexate resumption: a single-center, retrospective study	Egyptian Rheumatology and Rehabilitation 49巻1号 DOI:10.1186/s43166-022-00162-w 2022年12月	Original Article
107	Hiroko Nagafuchi, Hirotohi Kikuchi, Hiroyuki Ishibash 他	リウマチ膠原病アレルギー内科	Recommendations for the management of the vascular involvement in Behçet's disease by the Japanese national research committee for Behçet's disease-secondary publication	Modern Rheumatology road002巻 DOI: 10.1093/mr/road002 2023年1月	Original Article
108	Mariko Mouri, Toru Kanamori, Eriko Tanaka 他	リウマチ膠原病アレルギー内科	Hepatic veno-occlusive disease accompanied by thrombotic microangiopathy developing during treatment of juvenile dermatomyositis and macrophage activation syndrome: A case report	Modern Rheumatology 7巻2号 P404-409 2023年1月	Case report
109	Yuko Hayashi, Takashi Odagiri, Taketora Echizenya 他	リウマチ膠原病アレルギー内科	Isolation of human parechovirus type 3 from an infant with sudden death.	Pediatrics International 64巻1号 Pe15305 2022年10月	Case report
110	Shotaro Suzuki, Mitsuru Imamura, Mariko Mouri 他	リウマチ膠原病アレルギー内科	Serum gasdermin D levels are associated with the chest computed tomography findings and severity of COVID-19.	Respiratory Investigation 60巻6号 P750-761 2022年11月	Original Article

計110件

1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入する(注) こと。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	石垣彩, 桑田真吾, 佐藤如雄 他	循環器内科	妊婦に発症した感染性心内膜炎に対する治療戦略	Therapeutic Research 43巻7号 P574-577 2022年7月	Original Article
2	伊藤伸悟, 水越慶, 古藤弾 他	循環器内科	心不全入院を繰り返した心房性機能性僧帽弁閉鎖不全症に対して経皮的僧帽弁接合不全修復術 MitraClipが奏効した1例	Therapeutic Research 43巻7号 P569-573 2022年7月	Case report
3	松田迪, 奥山和明, 鮫島未奈 他	循環器内科	心原性ショックに対してIMPELLA補助下でのVTアブレーションが奏効した1例	Therapeutic Research 43巻7号 P565-568 2022年7月	Case report
4	佐藤義典, 清川博史	消化器内科	4. 見落とし病変と考えられた症例一症例から学んだこと (4) サーベイランス内視鏡にて進行大腸癌で発見されたPCCRCの2例	臨牀消化器内科 37巻6号 P708-712 2022年5月	Review
5	曾根正勝	代謝・内分泌内科	原発性アルドステロン症	BIO Clinica 37巻8号 P7-11 2022年8月	Review
6	曾根正勝	代謝・内分泌内科	原発性アルドステロン症診療ガイドライン2021の主要な変更点	循環器内科 91巻5号 P624-628 2022年5月	Review
7	横田健一, 曾根正勝	代謝・内分泌内科	高齢者と副腎機能異常	日本老年医学会雑誌 59巻2号 P158-162 2022年4月	Review
8	横田健一, 曾根正勝	代謝・内分泌内科	ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬の原発性アルドステロン症治療における役割	糖尿病・内分泌代謝科 55巻2号 P196-203 2022年8月	Review
9	大坪 毅人	消化器・一般外科	高難度肝胆膵外科手術アトラス2022 II各論A 肝臓 4 基本手技④ Glisson鞘一括処理	手術 76巻4号 P455-460 2022年4月	Review
10	梅澤早織, 小林慎二郎, 中原一有 他	消化器・一般外科	EUS-FNAで術前に確定診断できたTS1の多形細胞型退形成癌の1例	膵臓 37巻2号 P104-111 2022年5月	Case report
11	小泉哲, 井田圭亮, 大坪毅人	消化器・一般外科	特集 最新医療機器・材料を使いこなす ヘルニア 成人鼠径部ヘルニア手術に用いるメッシュの選択法と手技のコツ	臨床外科 78巻2号 P231-235 2023年2月	Review
12	植原 健二, 小谷 貴史, 仁木 久照	整形外科	ROSA®によるロボット支援TKA	臨床整形外科 57巻8号 P957-962 2022年8月	Review
13	森雅亮	リウマチ膠原病アレルギー内科	若年性特発性関節炎における疾患活動性評価	リウマチ科 69巻1号 P90-94 2023年1月	Review
14	森雅亮	リウマチ膠原病アレルギー内科	IVIg抵抗性川崎病に対するアナキントラの有効性と安全性	リウマチ科 67巻4号 P462-467 2022年4月	Review

15	森雅亮	リウマチ膠原病アレルギー内科	血管炎症候群(川崎病, 高安動脈炎, ANCA関連血管炎など)	小児内科 55巻2号 P213-216 2023年2月	Review
16	森雅亮	リウマチ膠原病アレルギー内科	膠原病・リウマチ性疾患・自己炎症性疾患 若年性特発性関節炎	小児内科 54巻9号 P1598-1604 2022年9月	Review
17	森雅亮	リウマチ膠原病アレルギー内科	膠原病・リウマチ疾患. 特集 その道のプロの経験から学ぶ 小児診療のピットフォール.	小児科 64巻2号 P143-151 2023年2月	Review
18	森雅亮	リウマチ膠原病アレルギー内科	膠原病・リウマチ性疾患	小児科臨床 75巻3号 P481-486 2022年6月	Review
19	森雅亮	リウマチ膠原病アレルギー内科	小児科専門医を目指す人のためのQ & Aで読み解く分野別誌上セミナー 膠原病・リウマチ性疾患	小児科臨床 75巻3号 P481-486 2022年6月	Review
20	森雅亮	リウマチ膠原病アレルギー内科	サイトカインストームの基礎 サイトカインストームの概念	小児科診療 85巻4号 P415-421 2022年4月	Review
21	森雅亮	リウマチ膠原病アレルギー内科	若年性特発性関節炎 (JIA)	日本医事新報 5148巻 P43-44 2022年12月	Review
22	森雅亮	リウマチ膠原病アレルギー内科	関節リウマチの治療 治療総論 小児, 移行期における治療戦略-若年性特発性関節炎に承認されている抗リウマチ薬を中心に-	日本臨床 増刊号 最新関節リウマチ学(第2版) 80巻4号 P324-330 2022年4月	Review
23	森雅亮	リウマチ膠原病アレルギー内科	Vaccine hesitancy(ワクチン忌避)	臨床と研究 99巻4号 P482-485 2022年4月	Review

計23件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ・ 1. 目的および適用範囲、2. 定義、3. 倫理審査委員会、3. 1. 倫理審査委員会の審査研究、3. 2. 倫理審査委員会の構成員、3. 3. 倫理審査委員会の成立要件、3. 4. 部会員以外の参加、4. 審査の種類、4. 1. 通常審査、4. 2. 迅速審査、4. 2. 1 研究計画書の軽微な変更、5. 審査手順、5. 1. 審査申請、5. 2. 審査準備、5. 3. 審査、5. 4. 審査結果、5. 4. 1. 審査結果の種類、5. 4. 2. 審査結果、5. 4. 3. 審査結果通知、6. 現状報告、7. 研究計画の変更、8. 研究中止または終了、9. 秘密情報、10. 教育・研修、11. 事務担当者の責務、11. 1. 事務担当者の業務	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年7回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の定義や管理委員会の管理基準、審査方法等について	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年3回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

<p>① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況</p>	<p>【臨床研究講習会 A～C】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床研究講習会 (A) ・ 臨床研究講習会 (B) ・ 臨床研究講習会 (C) <p>※上記は、全て学内webシステムにて配信している。</p>
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>【臨床研究講習会 (A)】</p> <p>・ どうして「臨床研究」か？、日本における初めての臨床研究（比較試験）、どのような研究が該当するか？、日常診療と臨床研究の違い、臨床研究で最も大切なことは？、そもそも、臨床研究・臨床試験というものは、必ず「悪」を含むものが臨床試験、臨床試験の損得勘定は、臨床研究に関する規制、医学研究におけるスキャンダルの歴史、医療倫理の四原則の提唱、「医療倫理の4原則」と「ベルモント・レポート」、四原則の意義、ヘルシンキ宣言、同意説明文の記載内容（平易な言葉）、「アンケート」についての追記、倫理審査委員会、申請から倫理審査・承認まで、臨床研究法に拠る届出の流れ、統合指針による申請の流れ、事前登録、2021年指針統合のポイント、統合に際して、統合指針のポイント(1)～(3)、臨床研究を実施する時の必須チェックポイント、臨床研究における大切な区別(その1、2)、侵襲、軽微な侵襲、軽微な侵襲の実例1～2、介入研究、同意取得、データの保管、試料・情報の保管方法、既存資料・情報、既存資料・情報の同意の手続き、モニタリング・監査、「適応外使用」などについての考え方、個人情報保護法と匿名化について、個人情報とプライバシー、用語の解説1、医学研究に大切な用語の説明1、「匿名加工情報」、「研究」は特別扱われている！、用語の説明2、有害事象について（治験の場合を含む）、有害事象の定義、明らかに違う、と感じても、有害事象と重篤な有害事象、治験依頼者から規制当局への副作用報告期限、まとめ：「有害事象が発生したら・・・」、資料の保管とSDV、SDVの実際（治験の例）、「特定臨床研究」の範囲について、法律に基づく資金提供の公表範囲、Conflict of Interest について、ゲルシンガー事件にみる深刻な利益相反状態、利益相反の開示、COIの報告義務、公益通報、大規模臨床試験、日本における初めての臨床研究（比較試験）</p> <p>【臨床研究講習会 (B)】</p> <p>・ どうして「臨床研究」か？、日本における初めての臨床研究（比較試験）、日常診療と臨床研究の違い、臨床研究で最も大切なことは？、そもそも、臨床研究・臨床試験というものは、必ず「悪」を含むものが臨床試験、臨床試験の損得勘定は、臨床研究を実施する時の必須チェックポイント、実際に臨床研究計画を立てよう、プロトコール(計画書)作ることの意味、臨床研究の種類、どんな臨床研究が素晴らしいか？、-研究デザインと根拠の強さ -科学的根拠の質の分類- -研究デザインの分類-、臨床試験の王様、エステ通いのケースレポート、エステ通いのケースシリーズ、治療しない人たちはどうなるか？、無作為化コントロール試験・ランダム化比較試験、盲検化(マスク)・二重盲検化とは？、プラセボの必要性、エラーとバイアス、バイアスを減らす努力(1)～(3)、臨床試験事前登録の必要性、科学的理由：「出版バイアスの防止」、観察研究の典型であるレジストリー研究を考える、頭の中で考えること、介入研究と観察研究の違い、具体的なお話、1. 目的がよくわからない、2. 目的が2つ（以上）、研究計画はなるべく単純に！、3. 比較試験の基準が不明確、4. サンプルサイズが適切でない、探索型研究を上手に利用する、研究デザインの分類、観察研究のコツ、前向き観察研究の利点とコツ、有害事象と試験デザイン・試験実施、有害事象について（治験の場合を含む）、有害事象の定義、明らかに違う、と感じても、有害事象と重篤な有害事象、「重篤な有害事象」の定義、「重篤」は「重症度」と一致しない、有害事象に対する対応、試験開始前までに行う準備、試験薬（治験薬）との因果関係判定基準、試験薬（治験薬）との因果関係、治験依頼者から規制当局への副作用報告期限、まとめ：「有害事象が発生したら」、大規模臨床試験、日本における初めての臨床研究（比較試験）</p> <p>【臨床研究講習会 (C)】</p> <p>・ 臨床研究と言ってもいろいろあって…用語だけでも混同しやすくて…、研究デザインの分類、臨床試験(trial)の分類、臨床研究等の分類の整理、つまり…臨床研究の手続きにおいては…、〔申請書類入手の実際の手順〕、患者同意説明文(各自で作成)、迅速審査(書面審査)、通常診療よって得られた診療情報を用いる観察研究、他の研究機関への既存試料・情報の提供に関する届出書、有害事象報告で頻発する失敗、とにかく、申請関連の作業の時に、「適応外使用」などについての考え方、未承認薬などを使う時の現実的問題、未承認薬を使用する場合・適応外使用をする場合 本学のルール（特定機能病院の場合）、未承認の手技・高難度の手技を導入する場合 本学のルール（特定機能病院の場合）、その他（お問合わせ先）</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本学には、後期研修プログラムとして「任期付助教」と「大学院」の2つのコースが設けられている。
「任期付助教」は、3～5年間で専門分野の研修を行うが、特に内科学9分野・外科学5分野については、細分化された研修に入る前の前半2～3年間で各分野をラウンドする内容となっており、広汎な疾患を経験した後で各専門領域の研修を行うことができる。
任期付助教終了後は専門医の申請が可能であり、またこの期間は本学の規定により研究歴として加算されるため、学位申請も可能となっている。
一方、「大学院」は指導教授の指導のもと4年間学術研究を行い、その研究成果を取りまとめ提出、学内の最終審査に合格すれば博士(医学)の学位が取得できる。
なお、大学院学生の身分を有しつつ「診療助手」として病棟・外来の診療業務につくことが出来る制度があり、大半の大学院学生は研究に専念する期間以外にも自分の目指す臨床分野の後期研修を行っており、このコースでは、学位取得と同時に専門医の取得も可能である。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	243人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
安田 宏	内科	部長	39年	
峯下 昌道	呼吸器内科	部長	37年	
明石 嘉浩	循環器内科	部長	27年	
立石 敬介	消化器内科	部長	30年	
柴垣 有吾	腎臓内科	部長	30年	
曾根 正勝	代謝・内分泌内科	部長	27年	
山野 嘉久	脳神経内科	部長	30年	
新井 文子	血液内科	部長	35年	
川畑 仁人	リウマチ内科	部長	31年	
砂川 優	腫瘍内科	部長	20年	
古茶 大樹	神経精神科	部長	37年	
清水 直樹	小児科	部長	33年	
大坪 毅人	消化器外科	部長	37年	
縄田 寛	心臓血管外科	部長	25年	
佐治 久	呼吸器外科	部長	28年	
古田 繁行	小児外科	部長	27年	
津川 浩一郎	乳腺・内分泌外科	部長	36年	
村田 英俊	脳神経外科	部長	28年	
仁木 久照	整形外科	部長	39年	
梶川 明義	形成外科	部長	39年	
門野 岳史	皮膚科	部長	31年	
菊地 栄次	泌尿器科	部長	29年	
鈴木 直	産婦人科	部長	33年	
北岡 康史	眼科	部長	26年	

小森 学	耳鼻咽喉科	部 長	19年	
三村 秀文	放射線科	部 長	36年	
井上 莊一郎	麻酔科	部 長	31年	
小池 淳樹	病理診断科	部 長	32年	
藤谷 茂樹	救急科	部 長	33年	
佐々木 信幸	リハビリテーション科	部 長	26年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数 該当なし・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長 大坪 毅人
管理担当者氏名	事務部長 安藤 あゆ

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	事務部管理課
		各科診療日誌	事務部管理課
		処方せん	薬剤部、IT戦略推進室、診療記録管理室
		手術記録	IT戦略推進室、診療記録管理室
		看護記録	IT戦略推進室、診療記録管理室
		検査所見記録	IT戦略推進室、診療記録管理室
		エックス線写真	IT戦略推進室、診療記録管理室
		紹介状	IT戦略推進室、診療記録管理室
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事部人事課
		高度の医療の提供の実績	事務部管理課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務部管理課
		高度の医療の研修の実績	事務部管理課
		閲覧実績	事務部管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	メディカルサポートセンター
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	事務部管理課、薬剤部
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

診療記録全般の運用管理は、診療記録管理規程、並びに医療情報システムに関する規程を定めて管理しております。電子カルテに関しては、医療情報システムの安全管理に関するガイドラインに基づく規程で運用管理しております。診療記録の病院外への持ち出しは、附属病院個人情報保護方針に則り持ち出し禁止であることを教職員に周知しております。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学技術部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学技術部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学技術部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学技術部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療記録管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療記録管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	事務部管理課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室
		職員研修の実施状況	人事部人事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室 薬剤部 臨床工学技術部
		管理者が有する権限に関する状況	総務部総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	法務・監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務部総務課		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	
		医療安全管理部門の設置状況	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
		監査委員会の設置状況	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	
		職員研修の実施状況	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	
管理者が有する権限に関する状況			
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	(1) 診療記録管理室長 清水直樹
閲覧担当者氏名	(1) 診療記録管理室係長 高田悦子
閲覧の求めに応じる場所	(1) 診療記録管理室
閲覧の手続の概要 (1) 診療記録関係は、診療記録管理室 診療記録の閲覧は「大学病院における診療記録に関する運用管理規程」に基づき行っている。 診療記録の開示は「大学附属病院における診療情報に関する開示規程」に基づき行っている。 「診療記録等開示申請書」による申請時に請求者確認を身分証等で行い、主治医、診療部長、 病院長等に許可申請を行い、決裁後に提供を行っている。 (2)(1)以外は、事務部管理課	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的考え方 2. 用語の定義 3. 委員会、体制 4. 職員研修 5. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策 6. インシデント・アクシデント・合併症の診療記録記載 7. 重大アクシデント等発生時の対応 8. 医療事故調査制度支援センターへの報告 9. 患者からの相談への対応 10. 指針の閲覧および医療従事者と患者との情報共有 11. マニュアルの整備 12. 指針の改訂 	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 ((有)・無)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全統括会議 開催状況：年12回　　臨時開催1回 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医療安全管理に係る基本方針、管理体制に関すること (2) 医療安全対策、推進、教育に係る立案とその実施 (3) 院内死亡事例の検討 (4) アクシデント、合併症事例の検討 (5) 安全管理にかかわる職員への周知、研修に関すること (6) 安全管理のため立案された改善策の実施状況の調査、見直しに関すること (7) 医療安全に係る各部門、各委員会からの報告事項の検討と承認 (8) 病院長からの諮問事項に関すること (9) その他、医療安全の推進に関すること 2. セーフティマネジメント委員会 	

<p>開催状況：年12回</p> <p>活動の主な内容：</p> <p>(1) 事故等の発生要因分析と改善策等の検討及びその評価</p> <p>(2) マニュアル、改善策等の実施状況及び効果の評価</p> <p>(3) 医療安全管理の推進に関する事項</p> <p>(4) その他セーフティマネージャーの業務に関する事項</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 126 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： ・ 第1回 医療安全職員研修会「2021、2022年度重大インシデント・アクシデント」e-learning研修 ・ 第2回 医療安全職員研修会「患者間違い（部位・書類）輸血間違い重大事故発生」e-learning研修 ・ 新入職オリエンテーション ・ 研修医オリエンテーション ・ 中途採用者、復職者、異動者研修 ・ 看護師経年別研修（2年目、3年目）集合教育 ・ 生体情報モニタ e-learning研修 ・ 委託業者医療研修会 DVD研修 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>【輸血事故根絶TF】</p> <p>2021年1月異型輸血事故発生後から立ち上げ、再発防止策として毎月定例会議を行うとともに、以下活動を継続している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 輸血時のクロスモニタリング実施 2) 看護部、医療安全管理室によるラウンド実施 3) 輸血業務担当者（主任）を決定 4) 患者参画の取組み 5) 輸血現場の脆弱性の検証 6) 教育、研修実施 <p>インシデントア・クシデント発生後、病院として再発防止策が必要な事例においてはワーキンググループを立ち上げ再発防止策を検討し活動している。</p>	

【院内救急システム運営委員会】

- ・コードブルー、RRS（Rapid Response System）起動時例について検証を行い、必要時当該科や当該部署にフィードバックを行う。
- ・予期せぬ心肺停止について審議する。

【転倒・転落防止に関するWG】

- ・事象レベル3b以上の事例について検討した。
- ・転倒・転落予測システム Coroban導入や運用に向けた検討を行った。
- ・ワーキンググループメンバー（薬剤師）から提案された転倒時の障害を低減する緩衝床を試用し導入。
- ・医療安全マニュアル「転倒転落事故防止について」を改訂した。

【保険請求不可材料・破損薬剤の報告方法に関するWG】

- ・破損薬剤や物品について、金額、月別・病棟部署別、主な破損発生部署等について共有した。

【持参薬・退院時薬受け渡し確認チェックのWG】

- ・ワーキンググループで退院時薬受け渡し忘れ、紛失対策について検討し、医療安全マニュアルを改訂した。

【緊急手術の術前管理に関するWG】

- ・ワーキンググループで検討し、「緊急手術術前フロー」を作成した。

【転科時の申し送りに関するWG】

- ・転科時の申し送りに関する取り決めについて検討を行い、医療安全マニュアルを作成した。

【麻薬組成に関するWG】

- ・麻薬組成に関して検討し、医療安全マニュアルを作成した。

【塩化ナトリウムの処方に関するWG】

- ・塩化ナトリウム（塩）投与に関して検討し医療安全マニュアルを作成した。

【抗血小板薬・抗凝固薬の休薬再開に関するWG】

- ・各科で手技・手術の出血リスクを検討した。
- ・周術期外来から病棟など流れの中で活用や運用の検討を行った。
- ・医療安全マニュアルを作成した。

【生体情報モニタアラーム管理に関するWG】

- ・事例を共有し、生体情報モニタに関する教育、アラーム鳴動時の対応について検討した。

・医療安全マニュアルを改訂した。遵守チェックリストを新規作成した。

【中央部門・外来における病理検体取り扱いに関するWG】

・病理検体ガイドラインについて検討を行い、再発防止策について検討した。

【肺静脈血栓塞栓症予防に関するWG】

・既存のマニュアルの見直しを行う。

・内科疾患患者への予防策の基準作成を進める検討をした。

【救急カート運用基準に関するWG】

・配置物品、ジアゼパム注射液の管理、薬剤・物品チェックについて等運用に

関する取り決めを見直した。

・医療安全マニュアルを改訂した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容：「医療関連感染対策指針」を作成し、院内マニュアルである「院内感染防止の手引き（第4版）」の冒頭に掲載している。指針の主な内容は以下の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本理念 2. 感染管理に係る組織、委員会 3. 職員研修、教育の実施 4. 感染対策マニュアルの整備 5. 医療関連感染サーベイランスの実施 6. 適正抗菌薬療法の推進 7. 職業感染防止 8. 院内感染発生時の対応 9. 患者への情報提供と説明（指針の閲覧に関する基本方針） 10. 指針の改訂（最終改訂 2022年12月20日） 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容：感染委員会を毎月開催している。委員長は感染制御部部长で、委員は感染制御部、主たる診療科医師、看護部、臨床検査技術部、薬剤部、臨床病理診断技術部、事務（施設、人事など）の職員で構成されている。議題の主な内容は以下の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染サーベイランスを含む疫学に関する事 2. 院内感染の発生の要因及び対応に関する事 3. 滅菌及び消毒に関する事 4. 院内感染で注意すべき微生物及びその感染防止に関する事 5. 原因微生物別感染防止対策に関する事 6. 用途別、菌種別消毒薬に関する事 7. 感染症法等で規定された感染症の届出に関する事 8. 感染症報告書に関する事 9. 労働災害上の感染措置、取扱いに関する事 10. 院内感染防止のための検査に関する事 11. 環境微生物検査に関する事 12. 感染性廃棄物の適正処理に関する事 13. 院内感染防止マニュアルの改訂に関する事 14. 病院長からの諮問事項に関する事 15. その他、感染防止に関する事 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年11回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）：全職員対象の研修会を年2回開催している。それ以外に、新入職者に対する研修、看護師を対象にした研修などを合計すると年間11回程度の研修会を開催している。研修の主な内容は以下の通りである。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染の発生要因分析と改善策等の検討及びその評価 2. マニュアル・改善策等の実施状況及び効果の評価 3. 感染防止の推進に関する事項 <p>※2022年度研修会（全職員対象）：「当院における感染対策について－COVID-19対策を中心に－」「AST（抗菌薬適正使用支援チーム）の役割と活動について」（第1回感染対策研修会）「マスクの着用について」「こどもかぜと抗菌薬」（第2回感染対策研修会）</p> <p>【対象者別で行った研修会】「院内感染防止対策について」「感染対策の実践」「感染リンクナーズ会」「SSI学習会」「看護師経年別研修」等</p> 	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)
 1. 「感染症発生報告書」に基づいて行政へ報告を行い、毎月院内向けに集計・報告している
 2. 毎月部署毎の臨床分離菌の検出状況、薬剤感受性を集計して報告している
 3. 抗菌薬使用状況を集計して報告している
 4. サーベイランスを実施（SSI・針刺し切創など）し、院内講習等で報告している
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 1. 抗MRSA薬・カルバペネム薬の使用届出制度（電子カルテによる症例の確認）
 2. 細菌検査室からの報告（日報・週報）に基づいて症例毎に助言を行う
 3. ICTによる病棟ラウンド・コンサルテーションの実施
 4. 当院のマニュアルである「院内感染防止の手引き」の内容の追加・変更と職員への周知
 5. 「感染制御部ニュース」（ニュースレター）の発行

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況		有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況		年 11 回
・ 研修の主な内容：		
研修日	研修内容	参加者
4月13日	6西、6北 新人看護師勉強会	薬剤師1名 看護師11名
4月18日	8西新人看護師勉強会	薬剤師1名 看護師3名
5月配信	カリウム注射製剤について	看護師1,114名
7月配信	医療安全における医薬品取り扱いの注意点	医師642人、薬剤師81人、 看護師1275人
10月13日	静脈栄養の基礎	栄養士14名
12月配信	医療用麻薬の管理について	看護師1,166名
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ・ 医薬品保管管理・調剤・供給・情報提供・安全使用・教育研修 ・ 医薬品安全管理に関する定期巡回を年3回実施 ・ その回ごとに重点項目を決め、保管状況、期限等を確認する ・ 手順書に基づく業務の実施状況の確認 		
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)： 		
診断名	医薬品名	
クローン病	レミケード注	
胃癌術後腹膜播種、空腸吻合部腸重積	ガストログラフィン経口・注腸用 (ヨード造影剤によるアナフィラキシー歴がある患者への投与：禁忌事例)	
化膿性関節炎、骨髄炎	ゲンタマイシン硫酸塩注射液	
精神遅滞、自閉症	ゼプリオン水懸筋注シリンジ	
左下腿開放骨折後、広背筋皮弁後の感染	ゲンタマイシン硫酸塩注射液	
フィラリウ染色体陽性急性リンパ性白血病	スプリセル錠 (ダサチニブ)	
原発性免疫不全症候群 (CTLA-4ハプロ不全症)	オレンシア点滴静注250mg	
進行性多巣性白質脳症 (PML)	メフロキン錠275+ミルタザピン錠15mg	
“深部静脈血栓症		
動脈血栓症”	グルトパ注1200万	
未破裂脳動脈瘤	エフィエント	
敗血症性ショック	メロペネム点滴静注用0.5g (バルプロ酸Na使用患者に対する併用禁忌)	
遺伝性血管浮腫 (乳児)	フィラジル皮下注シリンジ30mg	
左肩人工関節術後感染	ゲンタマイシン硫酸塩注射液	
慢性活動性EBウイルス感染症	ジャカビ錠5mg	
未熟児動脈管開存症	イブリーフ (血小板減少のある患者に禁忌)	
未熟児動脈管開存症	イブリーフ (血小板減少のある患者に禁忌)	

Scedosporium apiospermum肺感染症	ブイフェンド
左眼翼状片	マイトマイシンC
高安動脈炎	レミケード点滴静注（インフリキシマブ）
小児心房細動	イグザレルト
ABO適合腎移植 リツキサン	

・ その他の改善のための方策の主な内容：
薬剤部内に医薬品情報室を設置し、PMDA、DSU、海外文献、学会誌、DRUGDEX、大学図書館、製薬会社より最新情報を入手し、DIニュース、院内メール、病棟担当薬剤師等により情報提供を行っている。緊急安全性情報等の特に重大な情報に関しては、閲覧リストを提出することで周知の確認を実施している。また院内で起こった副作用を収集し、薬事委員会で周知している。
-IT戦略推進室又は薬剤部部門システムより必要に応じ、使用量、使用患者、処方医師、使用診療科等のデータを抽出し把握している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 24 回
<p>・ 研修の主な内容：2022年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定機能病院に必要な医療機器研修 (AED) 1回 特定機能病院に必要な医療機器研修 (人工呼吸器) 1回 特定機能病院に必要な医療機器研修 (除細動器) 1回 特に必要と考えられる医療機器研修 (人工心肺装置) 2回 特に必要と考えられる医療機器研修 (人工呼吸器) 11回 特に必要と考えられる医療機器研修 (血液浄化装置) 3回 特に必要と考えられる医療機器研修 (閉鎖式保育器) 1回 特に必要と考えられる医療機器研修 (診療用高エネルギー放射線発生装置) 2回 特に必要と考えられる医療機器研修 (診療用放射線照射装置) 2回 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有 無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容：年1回の定期点検 人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式保育器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、経腸栄養ポンプ、生体情報モニタ、電気手術器、麻酔器、電動手術台、手術用内視鏡システム、診療用高エネルギー放射線発生装置(委託)、診療用放射線照射装置(委託)、X線CT装置(委託)、磁気共鳴画像診断装置(委託) 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有 無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)： <ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器一般外科(未承認) ディスプレイ持針器を鉗子チャンネル経由で消化管内に挿入し、組織縫合時に使用するバープ付き縫合糸を把持し、組織の縫合を行う。 2. 整形外科(適応外使用) 関節内に薬剤注入用デバイスを留置し底から微量の抗菌薬を持続注入する。 3. 耳鼻咽喉科(適応外使用) 咽頭皮膚瘻にヴォイスプロテナーゼ(プロヴォックス)を留置し唾液や食塊の漏れを予防する。 4. 循環器内科(適応外使用) 肺静脈隔離術後の重症肺静脈狭窄(閉塞)に対する経皮肺静脈形成術(拡張術)においてLD血管拡張用ステント、SD血管拡張用ステントを使用する。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： クラスⅢ、クラスⅣおよび医療機器安全管理委員会が必要とした新しい機器が導入される際は当該機器の使用に携わる医療従事者等の研修を実施することを義務付けている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>【統括の方法】</p> <p>・医療安全管理室に会議や業務の合間に立ち寄り、スタッフに声を掛け、指示を出す。必要時、管理者への報告を行う。できない場合は、室長や専任医師等に指示を出し、統括を図っている。</p> <p>・ワーキンググループ等にも可能な限り参加している。</p> <p>【医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、放射線管理責任者との連携の方法】</p> <p>・定期的な協議の場がある。また、必要時、その都度、審議している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (13名) ・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>IT 戦略推進室又は薬剤部部門システムより必要に応じ、使用量、使用患者、処方医師、使用診療科等のデータを抽出し把握している。</p> <p>【各種情報の整理】</p> <p>緊急安全性情報、安全性情報、添付文書改訂のお知らせ等が発出された場合、以下のように分類する。</p> <p>①緊急安全性情報</p> <p>②安全性情報</p> <p>③それ以外で特に職員への周知が必要と考えられる情報</p> <p>④その他</p> <p>①～③については書面にて対象薬剤を使用する部署の職員に周知を行う。①～③のうち特に重要な情報については、カンファレンス、看護師対象勉強会を通して薬剤師が周知する。特に重要と判断した情報は定期的にリマインドする。</p> <p>①～③の情報について書面にて情報の周知を行った際、その情報に関わる部署は、部署の職員が情報の伝達を受けた旨の署名を行う。さらに、①～③のうち、特に重要と判断した情報については、MUEを実施し情報伝達内容に沿った診療が行われているか調査する。調査結果を評価した上で、必要に応じ再度注意喚起を行う。</p> <p>【医薬品安全管理責任者への報告】</p> <p>①～③の情報を指名された薬剤師が把握した場合は、医薬品安全管理責任者名で院内に発出する。ま</p>	

た、その情報に関わる部署は、部署の職員が情報の伝達を受けた旨の署名を行う。さらに、①～③のうち、特に重要と判断した情報については、医薬品安全管理責任者の指示で MUE を実施し情報伝達内容に沿った診療が行われているか調査する。調査結果を評価した上で、必要に応じ再度注意喚起を行う。

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

薬剤師が、調剤、外来指導、病棟業務等において未承認等医薬品の使用を把握した際には、適応外使用医薬品管理マニュアルを用いて分類し、薬剤管理指導記録に記録し、情報管理部門より上記記録の抽出データを得て、医薬品安全管理責任者より指名された薬剤師が使用状況を把握・確認する。又は医師からの申請により把握する。

【リスク検討の有無、処方の妥当性等の確認】

医薬品安全管理責任者より指名された薬剤師が適応外使用医薬品管理マニュアルを用いて、重篤度、有用度を評価することで、処方の妥当性について確認する。必要に応じて、処方した医師等に対して処方の必要性や論文等の根拠に基づくリスク検討の有無を確認する。

【処方した医師等に対し処方変更等の提案、医薬品安全管理責任者への報告】

医薬品安全管理責任者より指名された薬剤師が適応外使用医薬品管理マニュアルを用いて分類し、重篤度、有用度が低い分類であった場合、薬剤部の小委員会で評価を行い、使用の可否について診療科の長に評価の結果を基に意見を伝え、必要な場合は処方提案、生命倫理委員会への申請など指導を行う。

・担当者の指名の有無 (有・無)

・担当者の所属・職種：

(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)
 (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師)
 (所属： ， 職種) (所属： ， 職種)
 (所属： ， 職種) (所属： ， 職種)

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

(有・無)

・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：
 遵守状況の確認

①インフォームドコンセントに用いる説明・同意文書に関する確認

診療記録管理委員会の下部組織である説明・同意検討部会で、説明・同意文書の書式を一括

管理している。2023年1月のシステム変更に伴い電子署名となったため、説明・同意検討部会で審査を行った院内共通書式を使用している。

② インフォームドコンセントに関する記載内容等の確認

医療安全管理室の報告事例検討委員会等で、患者に実施された医療行為について、事前に適切な説明を行っているか、当該患者の同意を得られているかを確認している。また、診療記録管理委員会では、診療記録・電子カルテへの記載内容の点検に関する協議を行い、下部組織である診療記録評価部会で、記載内容の監査を実施している。

: 指導の内容

- ① 電子カルテに説明内容や同意取得についての記載が不十分である場合は、医療安全管理室から記載者に記載内容について指導を行っている。
- ② 監査実施後は、記載内容の評価結果を取りまとめ、医療安全統括会議や診療記録管理委員会等で報告し、各診療科へフィードバックすることで改善を図っている。
- ③ 電子カルテでは患者ごとのインフォームドコンセントに関する記事を一括表示出来るよう「インフォームドコンセント」のタイトル選択と、記入漏れをなくするためのテンプレート使用について指導を行っている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有) 無
・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： : 記載内容の確認	
① 診療記録等の作成状況を日々確認し、記載不備に関しては、その都度、記載医師や看護師等に記載完了または追記を促している。	
② 退院時要約は、担当医が作成し、主治医が確認、診療部長が承認する。診療録の管理者は病院全体の作成状況を把握し改善に努めている。未作成の場合は督促を行っている。	
③ 「診療記録監査実施要綱」に基づき、診療記録監査を適宜実施し記載内容の確認を行っている。	
: 指導の内容	
① 診療記録管理委員会で、診療記録に関する事項について周知を図っている。	
② 監査実施後は記載内容の評価結果を取りまとめ、医療安全統括会議や診療記録管理委員会等で報告し、各診療科へフィードバックすることで改善を図っている。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有) 無
所属職員：専従（18）名、専任（1）名、兼任（9）名	

うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（5）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名

うち看護師：専従（4）名、専任（0）名、兼任（2）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

活動の主な内容：

1. 推進担当に関する業務

(1) 全死亡事例の検証

(2) インシデント、アクシデント、合併症、手術室バリエーションの収集分析

(3) 重大事故発生時の対応

(4) 医療事故調査制度への報告

(5) 安全な医療の実施状況確認のための院内ラウンド及び教育指導

(6) 医療安全に係る職員研修の企画、実施

(7) 診療内容のモニタリング：PE/DVT 発生件数、発生率、転倒転落発生率、インフォームドコンセント看護師同席率

(8) その他医療安全の推進に関すること

2. 危機管理に関する業務

(1) 患者相談窓口寄せられる苦情の受付及び対応

(2) 医療行為に基づく有害事象に対する対応

(3) 重大事故に対する対応

(4) 紛争事例に対する対応

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（9件）、及び許可件数（9件）

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・活動の主な内容：

当該医療技術の提供の申出があった場合、当該申請の内容の確認と適否。実施の確認。技術の適否について決定し、病院長、診療科の長に対し結果を通知。実施5例までは、手術記録、診療記録等の

提出を求め、記載内容を確認し当該技術について、適正な手続きに基づいて提供されていたか確認。術後の患者が死亡した場合、その他必要な場合にも確認を行っている。実施 5 例を超えた技術については、4 半期ごと症例の提出を求め実施状況の確認を行っている。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (21 件)、及び許可件数 (20 件)
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 ・ 無)

・ 活動の主な内容：

(1) 診療科の長から未承認新規医薬品等の使用の申し出があつた場合、当該申し出の内容を確認するとともに、未承認新規医薬品・医療機器等評価委員会（以下「委員会」という。）に対して、当該未承認新規医薬品等の使用の適否及び使用を認める場合の条件などについて意見を求める。

(2) 当該未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて使用されていたか否かについて、診療録等の記載内容及び当該職員の遵守状況を定期的に確認する。また、使用後に患者が死亡した場合、その他必要な場合にも、これらの確認を行う。

(3) 委員会が未承認新規医薬品等の使用の適否について決定したとき、又は前項の規定により当該職員の遵守状況を確認したときは、その内容について文書で病院長に報告する。

(4) 委員会の意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について決定し、当該診療科の長に対してその結果を通知する。

(5) 委員会での審査資料及び議事概要並びに当該職員の遵守状況の確認資料を、審査の日又は確認の日から少なくとも 5 年間保存する。

(6) 当該未承認新規医薬品等の継続使用及び中止を病院長に進言することができる。

(7) その他未承認新規医薬品等に関する必要な事項について定める。

(8) 各責任者が適応外使用医薬品等及び禁忌医薬品等の使用の可否、使用条件等について決定したときは、その決定事項について報告を受けるとともに、当該責任者に対し意見を述べる。

(9) 医療機器安全管理責任者が既承認新規医療機器の適正な手続きに基づく使用について確認したときは、その内容について報告を受けるとともに、当該責任者に対し意見を述べる。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 1071 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 363 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

院内死亡事例の検討

- ・ 各診療科医師は、全死亡患者の死亡報告書を記載し、診療部長が内容を確認したものを医療安全管理室に提出。医療安全管理室で医師が全例カルテチェックし、毎週、医療安全管理責任者、医療安全管理室職員、兼務医師と審議している。

アクシデント、合併症事例の検討

- ・ 合併症、3b 以上のアクシデントについても審議し、審議内容を、その都度管理者に提出している。早期に報告すべき事例があった場合は、速やかに管理者に報告している。審議結果を医療安全対策委員会に報告し、審議が必要な事例は委員会で検討している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (有 (病院名：杏林大学病院) ・ 無)
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有 (病院名：杏林大学病院) ・ 無)
- ・ 技術的助言の実施状況

私立大学病院相互ラウンドを杏林大学病院と実施した。「自己評価票に関する確認事項・質問事項と回答シート」を用い自己評価票に関する確認事項・質問事項のメールでのやり取りを実施した。また訪問により、状況確認を相互に実施し、情報交換をおこなった。

特に技術的助言はなかった。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・ 体制の確保状況
- 患者相談窓口を設置
 - 【部署】 医療安全管理室 (患者相談)
 - 【職種】 看護師 (兼任) 1 名、事務 8 名
 - 【時間】 平日 8:30~17:00、土曜 8:30~12:30
- 相談内容の共有

- 1) 患者相談受理取扱票を作成。当該所属長および担当者へ通知し、必要に応じて解決策を協議して決定している。
- 2) 対応策上、院内で協議が必要な場合は関係者を招集してカンファレンスを開催している。
- 3) 法律上の検討が必要な事案については顧問弁護士と協議を行っている。
- 4) 紛争等の解決策の内容については、その都度病院長へ報告し決済を受けている。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

* 別紙参照 2022 年度職員研修会開催状況 研修内容と職種別受講数参照

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

2022 年度 特定機能病院管理者研修 Web 研修 受講

(2022 年 11 月 11 日 2022 年 11 月 21 日 2023 年 1 月 16 日 2023 年 2 月 20 日)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

第三者による評価の受審状況

2017 年 4 月 7 日に病院機能評価認定交付

2022 年 12 月 2 日病院機能評価認定書交付 (認定 4 回目)

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

なし

・評価を踏まえ講じた措置

なし

(注) 記載時点の状況を記載すること

令和4年度 職員研修会開催状況 研修内容と職種別受講数

1) 全職員対象

2023年5月31日現在

回数・内容	開催日時	講師名	対象者	職種内訳				参加人数	
				医師	看護師	その他有資格者	事務員・他		
2022年度 第1回職員 研修	2020年度・2021年度 重大インシデント・ アクシデント	SafetyPlusによる配信 配信期間 2022年度7月1日 ～9月10日	医療安全専従医師	全職員 (対象人数 3132 人) ※配信期間内に、 異動、休職、退職 者数34人 未受講者数 114人	594	1248	450	692	2,984
2022年度 第1回職員 研修	2020年度・2021年度 重大インシデント・ アクシデント	SafetyPlusによる配信 【再】配信期間 2022年度9月16日 ～10月8日	医療安全専従医師	未受講者 (対象人数 114 人) ※配信期間内に、 異動、休職、退職 者数17人 未受講者数 11人	64	17	1	4	86
2022年度 第1回職員 研修 【未受講者 対象】	2020年度・2021年度 重大インシデント・ アクシデント	未受講者対象 集合研修 2022年11月14日 16:30～ 2022年11月16日 16:30～ 2022年11月17日 13:00～ 2022年11月24日 16:30～ 2022年11月25日 9:00～ 2023年3月23日 16:00～	動画視聴後、紙テスト	未受講者 (対象人数 11人)	10	/	/	1	11
2022年度 第2回 職 員研修	「患者間違い (部位・書類)」 輸血間違い重大事 故発生	SafetyPlusによる配信 配信期間 2022年度12月9日 ～2023年1月4日	医療安全専従看護師	全職員 (対象人数 3098 人) ※配信期間内に、 異動、休職、退職 者数36人 未受講者数 254人	519	1214	430	645	2,808
第2回 未受講者 限定	「患者間違い (部位・書類)」 輸血間違い重大事 故発生	SafetyPlusによる配信 【未受講者対象】配信期間 2023年度1月17日 ～2023年2月28日	医療安全専従看護師	未受講者 (対象人数 254 人) ※配信期間内に、 異動、休職、退職 者数9人 未受講者数 5人	145	30	15	50	240
2022年度 第2回職員 研修 【未受講者 対象】	「患者間違い (部位・書類)」 輸血間違い重大事 故発生	未受講者対象 集合研修 2023年3月22日 16:30～ 2023年3月23日 16:30～ 2023年3月24日 16:30～ ～	医療安全専従看護師	未受講者 (対象人数 5人)	5	/	/	/	5

参加者合計 6,150 人

職員一人当たり 2回 / 年

2)対象者限定研修会

内容	開催日時	講師名	対象者	職種内訳				参加人数
				医師	看護師	その他有資格者	事務員・他	
新入職オリエンテーション 医療安全研修	2022年4月1日	医療安全管理室 専従医師	新入職者 (研修医除く)	47	129	49	17	242
研修医オリエンテーション 医療安全研修	2022年4月4日	4月1日新入職オリエンテーション時の録画視聴	研修医	41	/	/	/	41
中途採用者、復職者、 異動者研修 (4月)	4/1、4、5、11、18、19、 20、21、22、25、26、27、 28	入職者＝4月1日新入職オリエンテーション時の録画視聴 医療安全問題集 異動・復職者＝AED動画視聴 感染・医療安全問題集	採用・復職・異動者	72	27	19	31	149
中途採用者、復職者、 異動者研修 (5月)	5/2、6、9、10、11、13、 16、23、24、27、30	入職者＝4月1日新入職オリエンテーション時の録画視聴 医療安全問題集 異動・復職者＝AED動画視聴 感染・医療安全問題集	採用・復職・異動者	8	8	5	10	31
中途採用者、復職者、 異動者研修 (6月)	6/1、2、3、6、7、8、9、 10、11、13、15、24、29	入職者＝4月1日新入職オリエンテーション時の録画視聴 医療安全問題集 異動・復職者＝AED動画視聴 感染・医療安全問題集	採用・復職・異動者	16	1	2	8	27
中途採用者、復職者、 異動者研修 (7月)	7/1、4、5、7、11、12、28	入職者＝4月1日新入職オリエンテーション時の録画視聴 医療安全問題集 異動・復職者＝AED動画視聴 感染・医療安全問題集	採用・復職・異動者	13	1	2	9	25
中途採用者、復職者、 異動者研修 (8月)	8/1、2、3、8、12、16、 18、24、25、29、31	入職者＝4月1日新入職オリエンテーション時の録画視聴 医療安全問題集 異動・復職者＝AED動画視聴 感染・医療安全問題集	採用・復職・異動者	9	4	0	7	20
中途採用者、復職者、 異動者研修 (9月)	9/1、2、6、7、9、12、13、 26、27	入職者＝4月1日新入職オリエンテーション時の録画視聴 医療安全問題集 異動・復職者＝AED動画視聴 感染・医療安全問題集	採用・復職・異動者	5	1	3	5	14
中途採用者、復職者、 異動者研修 (10月)	10/3、4、7、11、13、14、 17、19、20、24、27	入職者＝4月1日新入職オリエンテーション時の録画視聴 医療安全問題集 異動・復職者＝AED動画視聴 感染・医療安全問題集	採用・復職・異動者	37	2	3	10	52
中途採用者、復職者、 異動者研修 (11月)	11/1、8、9、11、14、22	入職者＝4月1日新入職オリエンテーション時の録画視聴 医療安全問題集 異動・復職者＝AED動画視聴 感染・医療安全問題集	採用・復職・異動者	1	1	1	9	12
中途採用者、復職者、 異動者研修 (12月)	12/1、2、5、9、20、21、 26	入職者＝4月1日新入職オリエンテーション時の録画視聴 医療安全問題集 異動・復職者＝AED動画視聴 感染・医療安全問題集	採用・復職・異動者	4	1	1	6	12
中途採用者、復職者、 異動者研修 (1月)	2023/1/4、10、11、12、 16、23、24、27	入職者＝4月1日新入職オリエンテーション時の録画視聴 医療安全問題集 異動・復職者＝AED動画視聴 感染・医療安全問題集	採用・復職・異動者	7	0	2	12	21
中途採用者、復職者、 異動者研修 (2月)	2023/2/1、6、7、9、13、 14、15、16、21	入職者＝4月1日新入職オリエンテーション時の録画視聴 医療安全問題集 異動・復職者＝AED動画視聴 感染・医療安全問題集	採用・復職・異動者	4	1	3	6	14

内容	開催日時	講師名	対象者	職種内訳				参加人数
				医師	看護師	その他有資格者	事務員・他	
中途採用者、復職者、異動者研修(3月)	2023/3/1、16、17、22、24、27	入職者=4月1日新入職オリエンテーション時の録画視聴 医療安全問題集 異動・復職者=AED動画視聴 感染・医療安全問題集	採用・復職・異動者	1	1	3	10	15
				参加者合計				675 人
看護師経年別研修(2年)	2022年9月6日 2022年9月13日 2022年10月24日	医療安全管理室 専従看護師	看護師	/	146	/	/	146
看護師経年別研修(2年)	2022年6月30日 2022年7月1日 2022年9月21日	医療安全管理室 専従看護師 専従薬剤師	看護師	/	125	/	/	125
生体情報モニタ	NursingSkill SafetyPlus による配信	課題コンテンツ	看護師 保健師 助産師	/	1253	/	/	1,253
				参加者合計				1,524 人
委託業者研修	集合研修 2022年4月20日 2022年5月12日 2022年5月13日	医療安全管理室 専従スタッフ	委託業者 スタッフ	/	/	/	51	51
委託業者研修	DVD視聴	医療安全管理室 専従スタッフ	委託業者 スタッフ	/	/	/	406	406
				参加者合計				457 人

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ① 医師免許を有している者（初期臨床研修修了者） ② 医療安全確保のために必要な資質及び能力を有している者 ③ 病院の管理運営に必要な資質及び能力を有している者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・ 公表の方法 大学病院ホームページにて公表。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・ 公表の方法 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由、管理者の選考結果、選考過程について大学病院ホームページにて一般公開。 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
別紙 病院長選考委員会 名簿参照				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限
<ul style="list-style-type: none"> ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>） ・ 公表の方法 ・ 規程の主な内容 管理者が、病院の管理・運営に必要な指導力を発揮できる内容。具体的には、病院業務の総括者として、病院の管理運営に必要な人事及び予算の執行権限を有する旨を明記している。 ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割 副院長（6名）がそれぞれの役割を担い、病院長を補佐し、病院長に事故あるときは予め指名された副院長がその職務を代理し、病院長が欠けたときはその職務を行う。 病院顧問は、本院の業務遂行に関し、管理者に助言することができる。 ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況 「中堅事務職員研修会」、「管理者対象医療安全研修」、「評価者研修会」

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無 <input type="radio"/>				
監査委員会の開催状況：年 3 回実施 2021年6月29日 2021年9月27日 2022年2月14日 <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容：医療安全管理業務の執行状況に関する監査 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有・無 <input type="radio"/>） ・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有・無 <input type="radio"/>） ・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有・無 <input type="radio"/>） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="radio"/> 有・無 <input type="radio"/>） ・ 公表の方法：聖マリアンナ医科大学病院ホームページにて公表 					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
別紙 監査委員会名簿参照				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

				有・無	
--	--	--	--	-----	--

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 体制の整備状況及び活動内容 ・ 専門部署の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 内部規程の整備の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無) ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無) ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 常勤理事及び監事により構成される「常任役員会」が病院の管理運営状況を監督している。 内容としては、毎月の運営状況や主要人事、或いは予算等が監督内容となる。 本会には毎回管理者である病院長が出席し、その都度助言等を受けている。 ・ 会議体の実施状況（ 年11回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年11回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ） ・ 公表の方法 イントラネットを通じて全職員へ公表している。 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：常任役員会			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
明石 勝也	聖マリアンナ医科大学	○	<input checked="" type="radio"/> 有・無
北川 博昭	聖マリアンナ医科大学		<input checked="" type="radio"/> 有・無
加藤 智啓	聖マリアンナ医科大学		<input checked="" type="radio"/> 有・無
大坪 毅人	聖マリアンナ医科大学		<input checked="" type="radio"/> 有・無
明石 嘉浩	聖マリアンナ医科大学		<input checked="" type="radio"/> 有・無
川瀬 弘一	聖マリアンナ医科大学		<input checked="" type="radio"/> 有・無
近藤 浩志	聖マリアンナ医科大学		<input checked="" type="radio"/> 有・無
鈴木 宣男	聖マリアンナ医科大学		<input checked="" type="radio"/> 有・無
山本 真士	聖マリアンナ医科大学		<input checked="" type="radio"/> 有・無
福嶋 弘榮	外部機関		有 <input checked="" type="radio"/> 無
清水 至	外部機関		有 <input checked="" type="radio"/> 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年0件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 学内ホームページ、職員ハンドブックに掲載している。

聖マリアンナ医科大学病院 病院長選考委員名簿

氏名	所属	職名	選定理由	経歴
(委員長) 三宅良彦	聖マリアンナ医科大学	理事	大学病院長選考委員会規程 第3条1号に基づき聖マリアンナ医科大学理事として、大学病院に係る常務を主幹する。	1972年 東京慈恵会医科大学医学部医学科卒業 1975年 聖マリアンナ医科大学第二内科学助手 1983年 医学博士(聖マリアンナ医科大学) 1987年 聖マリアンナ医科大学 第二内科学助教授 2001年 同 大学 内科学(循環器内科)教授 2008年 同 大学 医学部附属病院病院長 2011年 同 大学 学長 2017年 同 大学 名誉教授・学校法人聖マリアンナ医科大学副理事長
近藤浩志	聖マリアンナ医科大学	理事	大学病院長選考委員会規程 第3条1号に基づき聖マリアンナ医科大学理事として、病院運営および組織管理への識見と経験を有する。	1988年 中央大学経済学部産業経済学科卒業 1988年 富士銀行(築地支店)入行 1994年 富士銀行(広報部広告宣伝係)調査役 1995年 富士銀行(本店営業第一部)課長 1999年 富士銀行(個人開発部プロダクト企画・開発係)調査役 2003年 みずほ銀行(個人商品開発部ローンチーム)参事役 2004年 みずほ銀行(新橋支店)副支店長 2008年 みずほ銀行(個人業務部付) 関クレディセゾン出向 みずほ提携推進部長 2011年 みずほ銀行(雷門支店)支店長 2013年 みずほ証券(連携営業推進部)営業部長 2014年 みずほ証券(職域営業部)部長 2016年 みずほ証券(ライフプラン営業部)部長 2019年 みずほ銀行(向ヶ丘支店付)本学出向 財務部参事 2020年 聖マリアンナ医科大学 常勤理事
(副委員長) 加藤智啓	聖マリアンナ医科大学	医学部長	大学病院長選考委員会規程 第3条2号に基づき医学部長として、医師の立場から、豊富な経験を有しており、医療及び医学に関し識見を有しているため。	1986年 東京大学医学部卒業 1988年 東京大学医学部 物理療法内科学教室医員 1991年 聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター助手 1995年 医学博士(東京大学) 1996年 聖マリアンナ医科大学 内科・臨床検査医学 講師 1998年 米国アラバマ州立大学医学部 客員研究員 1999年 聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター 助教授 2007年 同 大学 生化学主任教授 同 大学 大学院 疾患プロテオーム・分子病態治療学 教授 2011年 同 大学院 医学研究科長 2014年 同 大学 医学部長
遊道和雄	聖マリアンナ医科大学	研究科長	大学病院長選考委員会規程 第3条3号に基づき研究科長として、医師の立場から、豊富な経験を有しており、医療及び医学に関し識見を有しているため。	1985年 鹿児島大学医学部卒業 1985年 富山医科薬科大学附属病院整形外科研修医 1990年 高岡市民病院整形外科 1994年 医学博士(富山医科薬科大学) 1995年 米国スタンフォード大学放射線腫瘍学教室留学 1996年 富山医科薬科大学医学部整形外科助手 2000年 英国グラスゴー大学リウマチセンター留学 2003年 聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター講師 2007年 同大学 難病治療研究センター准教授 2010年 同大学 大学院 難治性疾患病態制御学教授 2011年 同大学 難病治療研究センター長 2020年 同大学 大学院 医学研究科長
峯下昌道	聖マリアンナ医科大学	副院長	大学病院長選考委員会規程 第3条4号に基づき大学病院副院長として、医師の立場から、豊富な経験を有しており、医療及び医学に関し識見を有しているため。	1986年 防衛医科大学校 卒業 1988年 陸上自衛隊海田市駐屯地医務室医官 1997年 医学博士(広島大学) 1997年 国家公務員共済組合連合会三宿病院内科医師 (兼自衛隊中央病院医官) 1999年 防衛庁陸上自衛隊幕僚監部衛生部医務班医療管理係長 2001年 自衛隊福岡病院外来診療科部長 2003年 自衛隊熊本病院内科部長兼先任診療科部長 2006年 聖マリアンナ医科大学 内科学(呼吸器・感染症内科)講師 2008年 同 大学 内科学(呼吸器・感染症内科)准教授 2015年 同 大学 内科学(呼吸器内科)教授 2017年 同 大学附属大学病院 副院長
本舘教子	聖マリアンナ医科大学病院	看護部長	大学病院長選考委員会規程 第3条5号に基づき大学病院看護部長として、看護師の立場から、豊富な経験を有しており、医療及び医学に関し識見を有しているため。	1981年 信州大学医療技術短期大学部卒業 1981年 財団法人 三友堂病院 1985年 看護教員養成課程 修了 1985年 財団法人 三友堂病院看護専門学校 1999年 聖マリアンナ医科大学病院 2003年 同 病院 主任看護師 2005年 同 病院 看護部長 2007年 同 病院 看護副部長 2014年 同 病院 看護部長 2016年 認定看護管理者取得 2020年 看護統括担当執行役員
二川一男	元厚生労働省事務次官	外部有識者	大学病院長選考委員会規程 第3条6号の学外の有識者として、元厚生労働省事務次官の経験から、医療行政を把握しているとともに、医療・保健・福祉全般に関する豊富な知見を有しているため。	1980年 東京大学法学部卒業 1980年 旧厚生省入省 2012年 厚生労働省官房長 2014年 厚生労働省医政局長 2015年 厚生労働省事務次官 2017年 退官 2020年 東レ株式会社 社外取締役
小山信彌	東邦大学	外部有識者	大学病院長選考委員会規程 第3条6号の学外の有識者として、東邦大学名誉教授として医師の立場から、豊富な経験を有しており、医療及び医学に関し識見を有しているため。	1972年 東邦大学医学部卒業 1991年 同 大学 心臓血管外科学講座 助教授 1995年 同 大学 心臓血管外科学講座 教授 2000年 東邦大学医学部付属大森病院 院長 2012年 東邦大学医学部 特任教授、名誉教授 2021年 日本私立医科大学協会 参与

聖マリアンナ医科大学病院 監査委員会名簿

医療安全管理業務の執行状況を監査するために、委員長及び委員の過半数が当院と利害関係のない監査委員会を設置いたしました。
(医療法施行規則第15条の4第1項第2号に基づく委員会) (2023年4月1日)

開設者(理事長) 明石 勝也

氏名	所属・役職	委員	選定理由	利害関係	委員の要件
上原 敏夫	一橋大学名誉教授、 山本柴崎法律事務所 弁護士	委員長 (外部委員) 再任	一橋大学教授、九州大学・北海道大学等多数の大学の講師及び司法研究所講師等の教職、日本民事訴訟法学会、日本私法学会及び仲裁ADR学会等の理事、法制審議会幹事・臨時委員、下級裁判所裁判官指名諮問委員会委員、最高裁判所民事規則諮問委員会委員及び司法試験考査委員等の法律立案・法曹養成等の公職、学校法人藤村学園副理事長を歴任し、さらに長年にわたってカンボディア王国及び中華人民共和国の法整備の支援に尽力され、日本を代表する民事訴訟法学者である。 また、平成21年には本院の医療事故調査委員会外部委員を務めたほか、医療事故を代表する判例の解説(「ルンパール事件」)民事訴訟法判例百選第4版)を著すなど、医療関係の法務についても深い見識を有している。人格識見は各界においても広く知られているところであり、外部委員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
相馬 孝博	千葉大学医学部附属病院 医療安全管理部 特任教授	委員 (外部委員) 再任	心臓外科医の指導医として活躍、国立保健医療科学院政策科学部安全科学室長を務め、名古屋大学医学部附属病院医療の質・安全管理部准教授、東京医科大学医療安全管理学講座主任教授を経て現職。 インфекションコントロールドクター(ICD)、日本医療の質・安全学会理事、日本医療・病院管理学会評議員、日本呼吸器外科学会評議員、横浜市立大学病院外部評価委員会委員長を務める。 感染制御および医療安全管理業務の経験を有する委員として見識を有している。人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
岡田 綾	順天堂大学再編事業事務局 前順天堂医院看護部長	委員 (外部委員) 新任	順天堂大学医学部附属練馬病院、順天堂医院で長年に渡り看護部長を務められ、自施設において医療安全対策に積極的に関わっていた。大学病院に求められる実践・教育・研究という役割的視点を持ち合わせており、また人格的にも優れている人物である。外部委員としてふさわしい。	無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
福島 慎吾	認定NPO法人 難病のこども支援 全国ネットワーク会専務理事	委員 (外部委員) 新任	脊髄性筋萎縮症という神経難病、てんかんのある子どもの父親。社会福祉士。入間市障害者福祉審議会会長、神奈川県慢性疾病児童支援協議会委員、千葉県移行期医療支援連絡協議会委員、社会保障審議会専門委員などを努められており、人格、識見とも優れ、外部委員としてふさわしい。	無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者
大橋 茂	内部監査室 室長	委員 (内部委員) 新任	法人の内部監査室長として会計監査・業務監査に携わり、公平な立場で物事が判断でき、内部委員としてふさわしい。	有	その他

2023年度 管理運営会議 出席者

2023年10月25日

10月1日修正

組織図上の役職等		氏名		出欠印	代理出席者	連絡先
病院長 ・ 副院長	病院長	オオツボ 大坪	タケヒト 毅人			8-093
	副院長 呼吸器内科部長 【感染対策、地域連携、Total Quality Management】 Total Quality Management室長、夜間救急センター副センター長、 呼吸器病センター長、メディカルサポートセンター長	ミネタ 峯下	マサミチ 昌道			8-046
	副院長 救急科部長 【労働安全衛生、高度救命導入、高度先進医療、ICU管理】 救命救急センター長、集中治療センター長、看護師特定行為研修センター長	フジタニ 藤谷	シゲキ 茂樹			8-108
	副院長 小児科部長 【診療情報・診療記録管理、診療報酬、保育園】 夜間救急センター副センター長、こどもセンター長、こどものこころセンター副センター長 てんかんセンター長、リウマチ・膠原病生涯治療センター副センター長、診療記録管理室長	シミズ 清水	ナオキ 直樹			8-091
	副院長、婦人科部長 【臨床倫理、医療器材、薬事】 生殖医療センター長、腫瘍センター副センター長	スズキ 鈴木	ナオ 直			8-087
	副院長 循環器内科部長 【医療安全、防災、IT化推進】 救命救急センター副センター長	アカシ 明石	ヨシヒロ 嘉浩			8-010
	副院長 看護部長 【看護・病床管理担当】	モトダテ 本館	ナリコ 教子			8-060
病院顧問	タイラ 平	ヤスヒコ 泰彦			8-018	
診療部門	総合診療内科部長	オオヒラ 大平	ヨシユキ 善之			8-004
	消化器内科部長 神経内分泌腫瘍センター長	タテイシ 立石	ケイスケ 敬介			8-006
	腎臓・高血圧内科部長 神経内分泌腫瘍センター副センター長	シバガキ 柴垣	ユウゴ 有吾			8-004
	代謝・内分泌内科部長 内分泌疾患センター長、糖尿病センター長	ソネ 曾根	マサカツ 正勝			8-009
	脳神経内科部長 脳卒中センター副センター長、パーキンソン病治療センター副センター長 ゲノム医療推進センター長、てんかんセンター副センター長	ヤマノ 山野	ヨシヒサ 嘉久			8-005
	血液内科部長 輸血部長	アライ 新井	アヤコ 文子			8-027
	リウマチ・膠原病・アレルギー内科部長 人工関節センター副センター長 リウマチ・膠原病生涯治療センター長	カワハタ 川畑	キミト 仁人			8-030
	腫瘍内科部長 腫瘍センター長、ゲノム医療推進センター副センター長、がんゲノム診療部	スナカワ 砂川	ユウ 優			8-048
	神経精神科部長 てんかんセンター副センター長	コチャ 古茶	ヒロキ 大樹			8-202
	新生児科部長 総合周産期母子医療センター長	ホクトウ 北東	イサム 功			8-167
	消化器・一般外科部長 手術・IVRセンター長	ミカミ 民上	シヤ 真也			8-143
	心臓血管外科部長 移植医療支援室長	ナワタ 縄田	カン 寛			8-028
	呼吸器外科部長 呼吸器病センター副センター長	サジ 佐治	ヒサシ 久			8-052
	小児外科部長 総合周産期母子医療センター副センター長、こどもセンター副センター長 臨床研修センター長、看護師特定行為研修センター副センター長	フルタ 古田	シゲユキ 繁行			8-033
	乳腺・内分泌外科部長 腫瘍センター副センター長、遺伝診療部副部長	ツ ガワ 津川	コウイチロウ 浩一郎			8-141
	脳神経外科部長 脳卒中センター副センター長	ムラタ 村田	ヒデトシ 英俊			8-157
	整形外科部長 人工関節センター長、リウマチ・膠原病生涯治療センター副センター長	ニキ 仁木	ヒサテル 久照			8-101
	形成外科部長	カジカワ カジカワ	アキヨシ アキヨシ			8-129

2023年度 管理運営会議 出席者

2023年10月25日

10月1日修正

診療部門	皮膚科部長	カドノ 門野	タカフミ 岳史		8-178	
	腎泌尿器外科部長	キクチ 菊地	エイジ 栄次		8-053	
	産科部長 生殖医療センター副センター長	タカエ 高江	セイドウ 正道		8-075	
	眼科部長	キタオカ 北岡	ヤスシ 康史		8-088	
	耳鼻咽喉・頭頸部外科部長	コモリ 小森	マナブ 学		8-112	
診療部門	放射線診断・IVR科部長 画像センター長	ミムラ 三村	ヒデフミ 秀文		8-181	
	放射線治療科部長 放射線治療センター長	ナカムラ 中村	ナオキ 直樹		8-110	
	麻酔科部長 手術・IVRセンター副センター長、脊椎センター副センター長	イノウエ 井上	ソウイチロウ 荘一郎		8-021	
	病理診断科部長	コイケ 小池	ジュンキ 淳樹		8-091	
	リハビリテーション科部長 リハビリテーションセンター長、脊椎センター副センター長 人工関節センター副センター長	ササキ 佐々木	ノブユキ 信幸		8-116	
	緩和ケア科部長 緩和ケアセンター長	ハングチ 橋口	さおり		8-177	
	病院長直轄	医療安全管理室長 消化器・肝臓内科副部長、内視鏡センター長	ヤスダ 安田	ヒロシ 宏		8-096
医療安全管理室主幹		フクザワ 福澤	トモコ 知子		8-150	
医療安全管理室次長		キタハラ 北原	ケイコ 圭子		8-179	
感染制御部長 感染症センター副センター長		タケムラ 竹村	ヒロム 弘		8-006	
診療協働部門		事務部部長 診療記録管理室副室長	アンドウ 安藤	あゆ		6431 8-171
	病院事務統括担当執行役員	ネヅ 根津	ヤスヒロ 保廣		8-029	
	事務部次長兼管理課課長	クサナギ 草薨	タクヤ 拓也		8-144	
	医事課課長	オノセ 小野瀬	ヤスオ 康夫		8-191	
	薬剤部長 治験管理室副室長	サカウエ 坂上	イツコウ 逸孝		8-155	
	栄養部長	シミズ 清水	トモコ 朋子		8-070	
	臨床工学技術部技師長	オオカワ 大川	オサム 修		8-058	
	リハビリテーション技術部技師長	ワタナベ 渡辺	サトシ 敏		8-067	
	臨床検査技術部技師長 臨床検査センター副センター長	ヤマザキ 山崎	サトシ 哲		8-007	
	臨床検査技術部参事（輸血部）	イノ 井野	ちさと		6245	
	診療放射線技術部技師長	モリ 森	ジュイチ 寿一		8-035	
	超音波診療技術部技師長	オカムラ 岡村	タカノリ 隆徳		5231・62	
	臨床病理診断技術部技師長	オオカワ 大川	チエ 千絵		8-170	
	ソーシャルワーク技術部技師長	ウエクラ 上倉	ミドリ 緑		8-068	
	診療施設部門	夜間急患センター長 救急科副部長、集中治療センター副センター長、心不全センター副センター長	ヨシダ 吉田	トオル 徹		8-092
		健康診断センター長	ハラ 原	マサシ 正壽		8-020
		精神療法・ストレスケアセンター長	ナカガワ 中川	アツオ 敦夫		8-007
腎臓病センター長 腎臓・高血圧内科副部長		サクラダ 櫻田	ツトム 勉		8-083	
超音波センター長		イズモ 出雲	マサキ 昌樹		8-132	
臨床検査センター長		ノブオカ 信岡	サチヒコ 祐彦		8-065	
中央器材室室長 麻酔科副部長 手術・IVRセンター副センター長		サカモト 坂本	ミキ 三樹		8-116	
認知症（老年精神疾患）治療研究センター長		カサヌキ 笠貫	コウジ 浩史		8-113	
統合失調症治療センター長 精神療法・ストレスケアセンター副センター長、こどものこころセンター副センター長		アンドウ 安藤	クミコ 久美子		8-032	

2023年度 管理運営会議 出席者

2023年10月25日

10月1日修正

診療連携部門

ハートセンター長 循環器内科副部長、手術・IVRセンター副センター長 集中治療センター副センター長	ハラダ 原田	トモオ 智雄		8-157
心不全センター長 手術・IVRセンター副センター長、集中治療センター副センター長	イシバン 石橋	ユウキ 祐記		8-013
ハイブリッド心臓大動脈治療センター長 心臓血管外科副部長	ニシマキ 西巻	ヒロシ 博		8-102
脳卒中センター長 脳神経内科副部長	アキヤマ 秋山	ヒサナオ 久尚		8-109
パーキンソン病治療センター長 メディカルサポートセンター副センター長	シライシ 白石	マコト 眞		8-061
肝疾患医療センター長 臨床検査センター副センター長	ワタナベ 渡邊	ツナマサ 綱正		8-181
脊椎センター長 整形外科副部長	アカザワ 赤澤	ツトム 努		8-028
こどものこころセンター長 こどもセンター副センター長	オノ 小野	カズヤ 和哉		8-044
遺伝診療部長	ミギタ 右田	オオスケ 王介		8-189
感染症センター長 感染制御部副部長	クニシマ 國島	ヒロユキ 広之		8-027
胆道・膵臓病センター長 神経内分泌腫瘍センター副センター長	コバヤシ 小林	シンジロウ 慎二郎		8-016

医療支援管理部門

メディカルサポートセンター課長	ホンダ 本田	カズトシ 和俊		8-074
メディカルサポートセンター参事	タキグチ 滝口	ミエ 美重		8-188
放射線管理室長	マエハラ 前原	ヨシアキ 善昭		8-164
診療記録管理室係長	タカダ 高田	エツコ 悦子		6456
治験管理室長	マツモト 松本	ナオキ 直樹		8-010
治験管理室課長	ミヤザキ 宮崎	カンナ カナ		8-100

その他・事務部門

企画・知財・IT戦略担当理事	ヤマモト 山本	シンジ 真士		8-001
病院経営戦略担当理事	カワセ 川瀬	ヒロカズ 弘一		8-020
病院経営戦略室	カンザキ 神崎	ヒロム 大夢		6489
総務部参事兼総務課課長	オクシマ 奥島	ヒデアキ 英明		3182
人事部部長	ハセガワ 長谷川	オサム 修		8-903
財務部参事兼財務課課長	ムラタ 村田	タクシ 武司		5862
施設部参事兼施設環境課課長	キタバヤシ 北林	マサヒコ 正彦		8-177
調達部購買・物品管理課課長	トヨタ 豊田	タカアキ 高彰		4623
IT戦略推進室室長 情報部門担当執行役員	シモヒラ 下平	ヒデフミ 秀文		8-001
臨床研修センター課長	ササキ 佐々木	トオル 亨		3920
看護師特定行為研修センター副センター長	タカノ 鷹野	イクヨ 郁与		8052